

計画検討状況の時点報告について

東港地区土地利用計画案作成及び公民連携まちづくり推進業務

令和 6 年11月 蒲郡市

1 蒲郡東港地区におけるこれまでの動き

1-1 2023年度3月開催「まちづくり協議会」報告概要

2023年度まちづくり協議会意見

2023年3月29日まちづくり協議会を以下のように開催しました。東港地区マスタープラン作成の進捗をお伝えし会長はじめ委員の皆さんにご意見をいただく機会となりました。

市長挨拶（部分）「今後は、市民や事業者の方をはじめ、様々な方と一緒に、社会実験として、現地の公共空間を実際に使ってみたり、あるいは、事業者と対話を行うことで民間の柔軟で豊富なアイデアやノウハウを取り入れた魅力的な空間整備の可能性を調査しながら、長年に渡り整備が進んでこなかった埋立地を中心に、実現性のある具体的な計画を作り、整備につなげていきたい。」



開催日時	令和6年3月29日（金）午後1時30分から午後3時30分まで		
開催場所	蒲郡市民会館東会議室		
出席者	【会 長】		
	・名古屋工業大学大学院工学研究科教授	秀島 栄三	
	【委 員】		
	・名古屋大学大学院 工学研究科教授	恒川 和久	
出席者	・名城大学 理工学部建築学科教授	生田 京子	
	・蒲郡商工会議所 会頭	小澤 素生	
	・中部地方整備局 三河港湾事務所長	東野 隆之	
	・愛知県東三河建設事務所長	齊藤 保則	
	・愛知県三河港務所長代理		
	三河港務所蒲郡出張所長	鈴木 茂弥	
	・愛知県都市・交通局 港湾課長代理		
	同課港湾企画グループ課長補佐	村山 貴弘	
	・愛知県都市・交通局都市基盤部都市計画課長代理		
	同課土地利用計画グループ課長補佐	大見 明弘	
	・蒲郡市建設部長	鈴木 伸尚	
	・蒲郡総代会蒲郡町部地区会長	細井 政雄	
	・がまごおり市民まちづくりセンター代表	金子 哲三	
	・蒲郡市都市計画審議会委員	早川 康子	
議題	【蒲郡市】		
	蒲郡市長	鈴木 寿明	
会議資料	【事務局】		
	・建設部 東港地区開発推進室室長	藤井 克巳	
	・建設部 東港地区開発推進室副主幹	権田 吉宏	
	【委託業者】		
	・蒲郡東港パートナーズ特別共同企業体 代表 忽那裕樹ほか5名		
	1 蒲郡市東港地区まちづくり協議会会長の選出について		
	2 報告事項		
	(1) 東港地区マスタープラン検討状況について		
	(2) 今後の予定について		
	・次第		
	・委員名簿		
	・委員任命書		
	・蒲郡市東港地区まちづくり協議会設置要綱		
	・蒲郡市東港地区マスタープラン検討資料		

委員意見	事務局回答
【委員1】 - 魅力的なプランだった、どの部分が先にできるなどロードマップを見たい （将来の）市民会館跡地もマスタープランでの位置づけを投げかけてほしい - 堤防がまちと海を分断しているように感じる - 海側を緑が見える形にするのはよい - まち側と港の距離を計画の中でどのように捉えるかが重要である	- 堤内地の公共用地、民有地、道路空間の関係性を強化する - 駐車場のネットワークも検討に含める - 行政投資を呼び水とした民間誘致など事業手法も含めて検討している - 堤内地・外地のアクセス性の向上 - リーディングPJとのつながりや交通の結節点をバリアフリーを前提に検討する - 港湾管理者と協議しながら市街地との連携を高めていく
【委員2】 - 特に、商業計画に対して空間ガイドラインを策定することは重要である - 植栽も一回の工事で全てが終わらないため、同様に長期的な計画案が必要だ - 各空間において展開されるアクティビティについても知りたい - お金をかけなくても1日滞在可能な場所として実現してほしい - 港地区と市街地をつなぐデザインを提案してほしい	- 商業とランドスケープを含めたデザインガイドラインは官民が一体的になれる 「1階部分は開放しましょう」「緑について総合的に関連したデザインにしましょう」などとデザインガイドラインに盛り込んでいきたい - 駐車場は港湾管理者の考えも伺い、大きな拠点ではなく分散配置についても議論したい （サイトプランの）防潮壁沿いの駐車場配置は市街地との連続性を分断する可能性もあるが自動車でのアクセス数による - ウォークابلへの移行を実現のためにも効率的な駐車場配置を検討したい - 海上交通の視点からふ頭用地での駐車場は必要である
【委員3】 - 温浴施設をつくってほしいという市民の声が多い - 県所有の元蒲郡荘などを温浴施設にするのが良いのではないか - 元蒲郡荘の土地の有効利用が求められる - 駅を降りて海が見えるということは魅力的だ - 海へ向かって（駅から）人を引き込むモニュメントがほしい - 不定期でもいいのでラグーナ行や大島行を海でつないでほしい	- 温浴については、ウェルビーイングの視点からも駅前での展開、東港の市民も含めた観光としての展開を検討したい - 海まで引き込むモニュメント、そして小さなアートが連続するような歩いて楽しいストーリーをつくりたい - 竹島ふ頭のターミナル機能を使ってラグーナと大島への就航も可能であり、そこに行く理由も生まれ、つくりたい - 海上交通の社会実験も行いたい - 大島に行く理由もつくれると考えている
【委員4】 - 駅北から駅南に行くことがないのが現状である - アピタ前で社会実験が行われていても足を運ぼうと思えない （東港に）行きたくなる場所ができて市民生活が豊かになることは喜ばしい - 東港地区のこどもファーストとは何かを掘り下げてほしい - 子どもたちが日常的に安心安全に遊べる、家族で過ごせる場所が必要である - 子育て世代が蒲郡で暮らしたくなるような魅力をつくってほしい 「あかりの社会実験」のような素晴らしい取組をこれからも期待する - 海沿いの車の少ない道を通りラグーナまで足を伸ばすなど自転車の活用 - 雨の日、暑い夏の日、寒い冬の日、風が強い日があっても遊ばせられるとよい - 木陰になるような風も和らぐような工夫をしてほしい	- 自転車はまちを体に染み込ませることのできる乗り物だ、ご意見通りまちの魅力を体感できるようなアクティビティを盛り込みたい - 人中心のまちづくりを考えていく一方で、車が通る港の道路としての管理機能を満たし、人と車の共存を目指したい - 子どもファーストでありながら、子どもたちを安全安心に遊ばせられることで大人がゆっくりする時間も提案できるデザインにしたい - 教育面では子どもたちが何回も来られるイベントプログラムを提供する人材などソフト面も含めて検討したい - 植栽デザインでは、冬は陽をとおし、夏は木陰をつくり、更に防風機能も検討したい - イベント時に降雨があっても中止とはせず縮小開催できるような雨をしのぐ場所を検討している
【委員5】 - 水域利用には貨物取扱量など物流港であることを考慮する必要がある - 漁業関係者とも利害が一致するような整備が必要である - 東港に留まらず道路計画の全般的な見直しが必要と感じている - 全国一の良港水産高校カッター大会やトライアスロン等を文化として取り入れる - 使い勝手の良い柔軟性ある広場の確保も考慮してほしい - 市民イベント利用希望が多いが照明も不十分で安全が担保できないのが現状だ - 竹島ふ頭を母港とする愛知丸を含め災害対策との連動性を検討すべきである - 交通安全対策も考えてほしい	- 歴史的背景にも配慮し、より良いものにしたい - 水面利用の背景として陸地利用を考えるのは困難であるがご指摘のように検討を進めたい - 水面利用に関しては、竹島ふ頭緑地の対岸（浜町）も含めて賑わいができるとうい
【秀島会長】 夜間照明は予算がなくなり消えたままになったものを見かけるが対策はあるか	- エリアマネジメントの仕組ができると積立開始し、積立金でLED照明等を直すことができる - 初期投資は必要だが、全体をコントロールすることで夜中の消費電力を抑える方法もある - 蒲郡市は、公共施設の照明器具LED化事業を進めていて、10年リース契約をしている - 契約期間内の交渉は契約相手が直す仕組みを取り入れいている
【委員6】 - みなと緑地PPPの活用は有効である - 災害時の帰宅困難者に対しても船の活用は有効である	

秀島会長挨拶「事務局は、委員の方々から頂いたご意見を踏まえて、計画検討の作業を進めてください。」と協議会はしめくくられました。

1-2 蒲郡東港地区における関連事業の進捗把握

上位計画および関連事業等との連携

東港地区マスタープランは、市域のまちづくりに関する上位計画や関連事業及び東港地区内の事業を踏まえて検討を進めます。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| ○ 第五次蒲郡市総合計画 | ○ 蒲郡市SDGs推進方針 |
| ○ 蒲郡市地域強靱化計画 | ○ ハザードマップ |
| ○ 三河港BCP | ○ 蒲郡市都市計画マスタープラン |
| ○ 蒲郡市立地適正化計画 | ○ 蒲郡市景観計画 |
| ○ 蒲郡市公共施設マネジメント実施計画 | ○ 蒲郡市地球温暖化実行計画 |
| ○ 三河港港湾計画 | ○ サーキュラーシティ蒲郡アクションプラン |

上位計画等

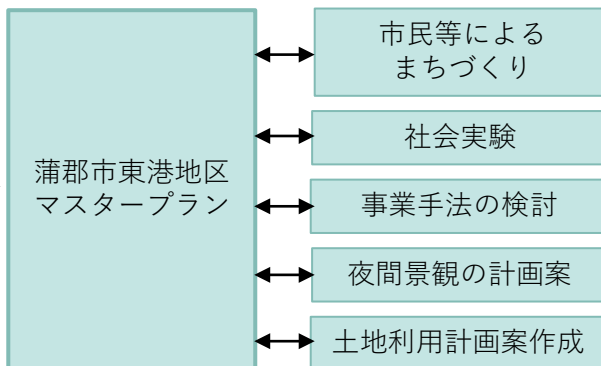
蒲郡市東港地区まちづくりビジョン（令和3年8月）

関連計画等

- 全市利用型施設のリーディングプロジェクト
- 蒲郡市竹島水族館コンセッション
- ラリー事業
- 駅北優良建築物等整備事業 等

情報共有・連携

東港地区土地利用計画案作成及び公民連携まちづくり推進業務

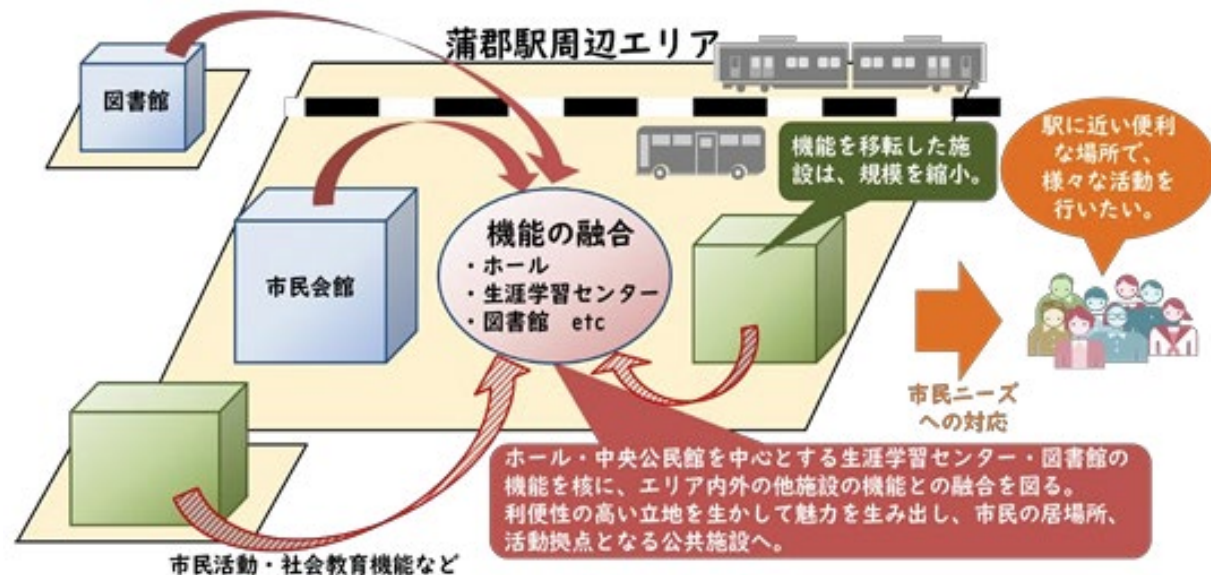


主な関連事業等の概要

蒲郡東港地区に関連する主な事業として、以下の状況を踏まえて検討を進めています。

●がまごおり「みらいキャンパス」～全市利用施設リーディングプロジェクト～ （蒲郡市教育委員会教育政策課）

蒲郡駅北口において、令和13（2031）年度までに、「市民の居場所」、「活動拠点となる場」を形成するため、ホール機能、図書館機能、生涯学習センター機能を有する全市利用施設を整備する予定がされており、今年度から基本計画検討がおこなわれる。



●2024JAF全日本ラリー選手権 RALLY三河湾（主催：モンテカルロ・オート・スポーツ・クラブ／企画運営：愛知県、蒲郡市、ラリー三河湾実行委員会、ラリー三河湾支援委員会）

令和6年3月2日、3日にラグーナテンボスをメイン会場、竹島ふ頭からベイパークをSS会場とするなど、市内各所でのレースが初開催されました。



●蒲郡市竹島水族館における公共施設等運営権の設定および施設リニューアル（観光まちづくり課／運営者：竹島開発株式会社）

展示エリアが拡大し、国内屈指の深海新水槽やカピバラ展示の復活、アシカ展示充実等リニューアルして10月12日にオープンしました。運営期間は令和6年4月1日から令和20年3月31日。



2 公民連携によるまちづくり

2-1 まちプロジェクト会議によるまちづくり

まちプロジェクト会議の3つの役割

まちプロジェクト会議では、マスタープランを一緒に考えながら、将来的には自分(参加者)たちがまちを豊かに活用する主体となることを目指すため、3つの役割を担っています。

基本事項の決定

利用想定者からの意見聴取

計画案の策定

詳細設計・工事

施設利用

使い手の意見を反映する

① “ワークショップ”

プランの適性をチェックする

② “社会実験”

将来活用する主体となる

③ “分科会”

まちプロジェクト会議は
3つを同時進行

これまでの取り組み

まちプロジェクト会議開始後の取り組み

2021年 7月5日～8月3日	：パブリックコメントの結果発表
11月14日	：スケートボード レッスンイベント
2022年 1月 5日	：東港地区まちづくり検討チーム発足
2月20日	：東港地区まちづくりシンポジウム
5月22日	：第1回東港地区まちづくりワークショップ
5月28日	：東港地区あかりまちづくりワークショップ「夜景観察まちあるき」
6月 5日	：第2回東港地区まちづくりワークショップ
8月 1日	：「東港地区」まちづくりプラットフォーム立ち上げ
11月23日	：まちで活躍する方のトークセッション「食」編
12月11日	：まちで活躍する方のトークセッション「アクティビティ」編
2023年 3月 4日	：ミニ社会実験「サンセットマーケット」
12月23日	：第1回蒲郡市東港地区まちプロジェクト会議
2024年 1月20日	：第2回蒲郡市東港地区まちプロジェクト会議
2月23日	：第3回蒲郡市東港地区まちプロジェクト会議
3月23日	：第4回蒲郡市東港地区まちプロジェクト会議
3月29日	：蒲郡東港地区 あかりの社会実験
3月29日	：第1回まちづくり協議会開催
4月21日	：第5回蒲郡市東港地区まちプロジェクト会議
6月1日～2日	：南北軸における実証実験「ポートタウンまちづくりデイズ」 ：あかりの社会実験Vol.2「歩道樹木・せせらぎライトアップ」
7月24日	：第6回蒲郡市東港地区まちプロジェクト会議
8月23日	：第7回蒲郡市東港地区まちプロジェクト会議
10月12日～14日	：蒲郡～鳥羽間フェリー特別運航社会実験
10月19日	：第8回蒲郡市東港地区まちプロジェクト会議
12月14日	：第9回蒲郡市東港地区まちプロジェクト会議
2025年 2月 7日	：第10回蒲郡市東港地区まちプロジェクト会議

①ワークショップ

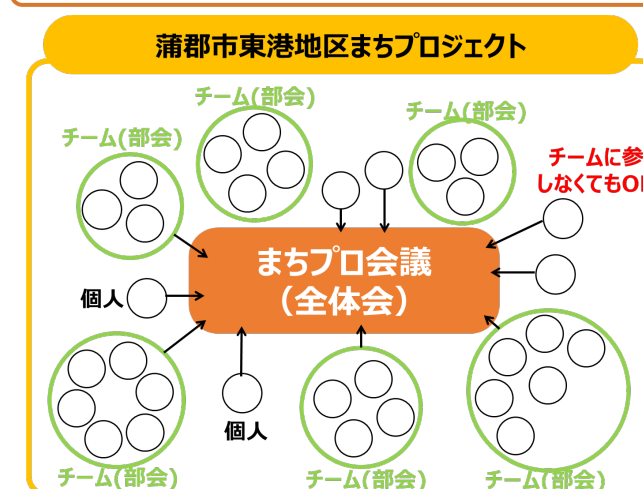


②社会実験



左：「ポートタウンまちづくりデイズ(24.6.1-2)」蒲郡駅から竹島ふ頭を会場とした社会実験のチラシ 上中央・上右：「ポートタウンまちづくりデイズ(24.6.1-2)」の様子、（上中央）フォトスポットとして人気だった竹島ふ頭設置文字モニュメント、（上右）市民によって作成されたウェルカムゲートの様子

③分科会



まちの将来的な活用主体となることを目指し、分科会を実施しています。現時点では、以下3つのグループが組成され、各グループで主体的な活動の検討を継続しています。

①将来のマネジメント・仕組みづくりに首をつっこみたい！

まちプロジェクト会議の組織の在り方や活動ルール、将来のマネジメント組織を見据えた仕組みを検討するチーム。

②がまきたいっか（駅北商店街活性化）

駅北側の商店街エリアの活性化を目指し、空家活用などの活動をおこなうチーム。

③東港地区で出店・新しい事業をしたい

将来の東港地区での出店や事業主体となることを視野に、個別ヒアリングや社会実験での連携をします。

3 社会実験蒲郡東港地区ポートタウンまちづくりデイズ

3-1 市民とつくる将来の姿 – 概要と検証内容

東港地区南北の骨格軸となる重要なエリアの活用をトライ

<実施概要>

- ・場所：県道蒲郡港線～竹島ふ頭
- ・日時：2024年6月1日（土）15：00～21：00
6月2日（日） 9：00～15：00
- ・来場者数：約6000人

<取組のポイント>

- ①道路空間の活用（人が歩き佇む空間づくり）
- ②港湾エリアの活用（水辺でにぎわう空間づくり）
- ③夜間照明の演出（安全で楽しい夜間景観づくり）



上：竹島ふ頭俯瞰イメージ
(23年度まちづくり協議会資料)

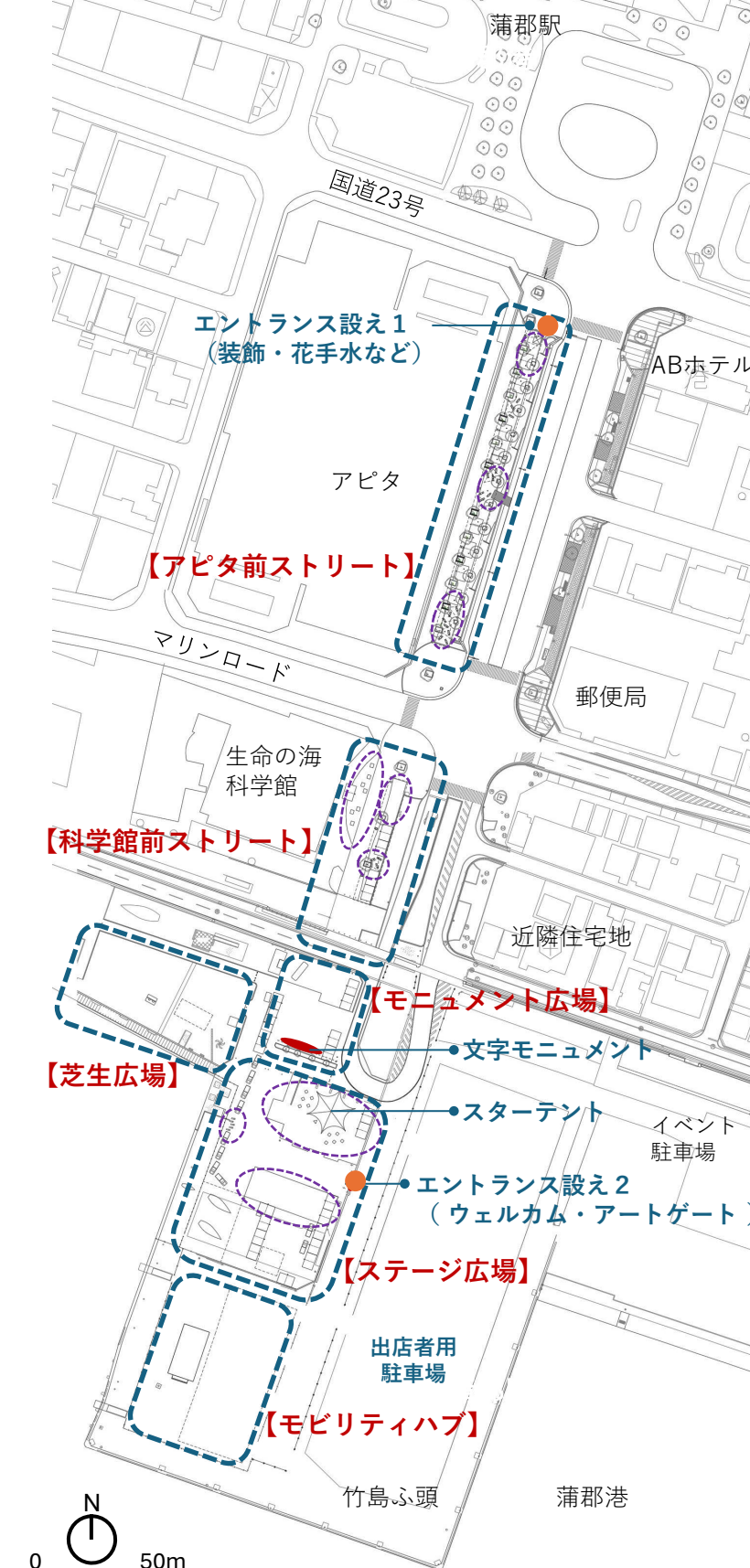


上：竹島ふ頭俯瞰写真（社会実験当日の様子）

検証項目	目的	手法
①みなとエリアの活用	・空間構成、規模性の検証 ・港空間に相応しいハード整備内容の検証 ・象徴性、視認性の検証 ・イベント空間としてのフィジビリティ検証	・港らしいモニュメント、夜間照明、象徴的な構造物などを仮設配置 ・海らしいにぎわい、エンターテインメント、立ち並ぶショップが楽しい広場的空間構築 ・店舗、アクティビティ、ステージ、広場空間を仮設設置し利活用 ・仮設文字モニュメント設置 →アンケート、利用状況調査による検証
②ほこみちエリアの活用	・空間構成、規模性の確認（歩道幅員検証含む） ・利活用のための利便性の確認 ・現状の道路空間の検証 ・舗装空間/緑地空間の利活用相関性把握	・シックなサイン、ガーランド、パーティ照明、流行のカフェテーブルやチェアを配置し洗練されたストリートモールの風景と建ち並ぶカフェやショップのある空間を仮設形成 ・現況を活かしたファニチャ配置により将来イメージの擬似的空間を仮設 →アンケート、利用状況調査による検証
③景観改善	・駅からの視認性の検証 ・統一感ある街並み景観の実践 ・賑わいづくりのための空間構成要素の確認	・エントランス風景の仮設 ・象徴性あるモニュメントの仮設設置 ・連続性と変化の感じられる空間を仮設 →アンケート、利用状況調査による検証
④出店・事業	・コンテナ等の占用の可能性検証 ・仮設/常設による店舗設置のための整備内容検証	・出店者からの意見聴取 →出店者アンケート、利用状況調査による検証
⑤行政的課題	・若者世代を呼び込む方向性確認 ・子育て世代を魅了するための整備内容検証	・来場者からの意見を集約など →アンケート、利用状況調査による検証
⑥回遊性	・仮設配置における人流動線、滞留位置の確認 ・仮設配置における歩行者数、滞留人口の把握 ・ウォーカビリティ実現性検証	・実測による歩行者数の把握 ・調査員による歩行者動線、滞留傾向の記録 →利用状況調査、ビデオ撮影による検証
⑦モビリティ	・マイクロモビリティの導入可能性の検証 ・現況におけるルートの安全性確認 ・マイクロモビリティによる回遊行動の検証など	・東港地区内での実走 ・モビリティ試乗体験者の意見聴取 →モビリティ試乗体験者へのアンケートによる検証
⑧駐車容量	・段階的整備を想定した交通混雑の状況や駐車場配置、容量の検証	・実測による南北軸の交通実態および東港地区の駐車場利用状況の把握 →交通量調査、駐車場利用調査による検証

会場ゾーニング、風景の構築

・将来の利活用・空間構成をイメージし、運営ボランティアや出店者のみなさんと共に会場配置計画を考え、装飾などを施し会場をつくりました



【アピタ前ストリート】



【科学館前ストリート】



【モニュメント広場】



【芝生広場】



【ステージ広場】



【モビリティハブ】

3-2 蒲郡東港地区ポートタウンまちづくりデイズ考察（1）

ポートタウンまちづくりデイズの検証により、以下のことが明らかとなりました。さらに検証をしながらプランへの反映をおこないます。

歩行空間



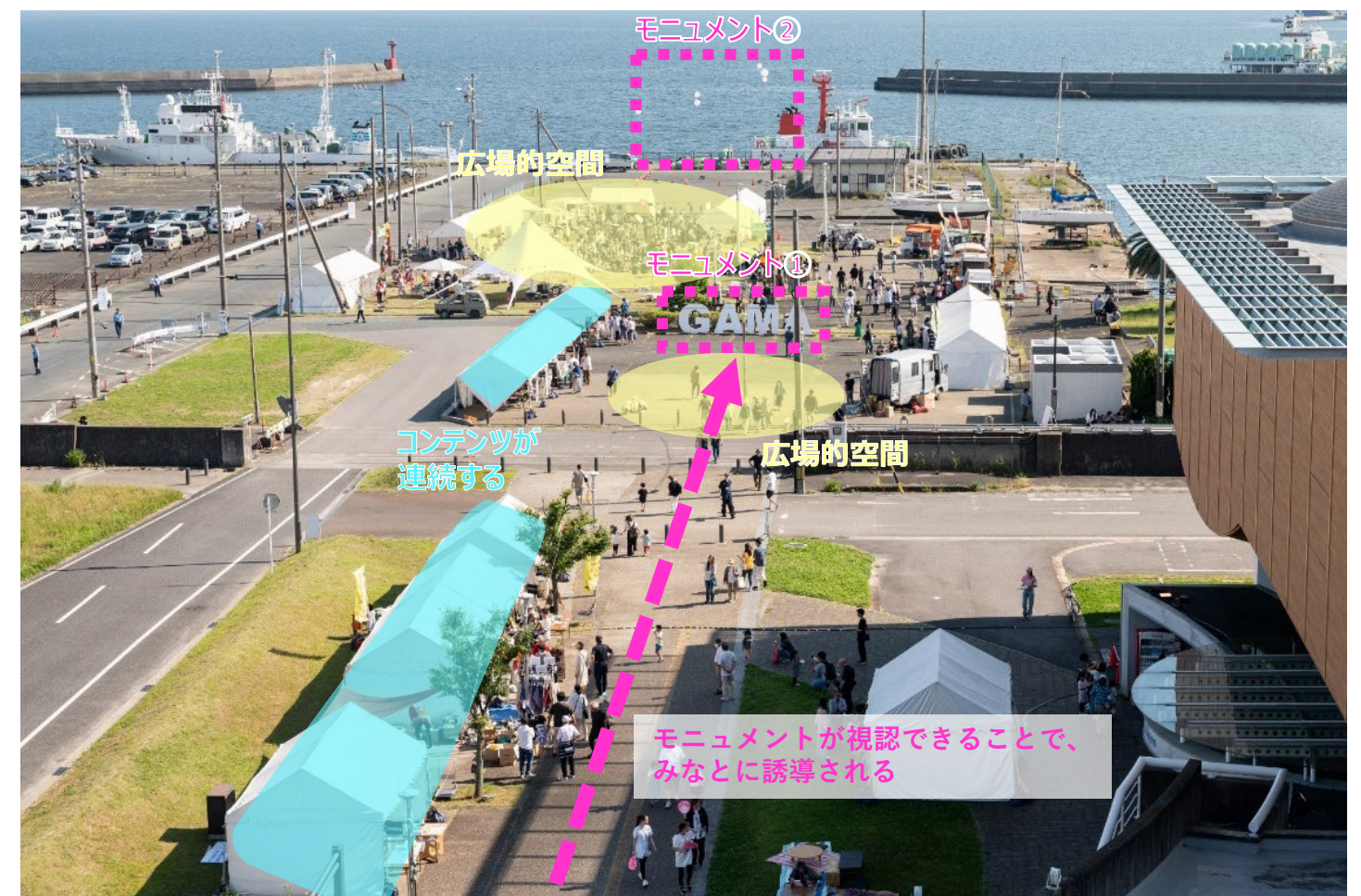
歩行空間を一部滞留空間や店舗を連なって設置し、竹島ふ頭の先端まで歩いていきたくなる連続性を創出することで、駅から竹島ふ頭への人流誘導に効果を発揮していた。

一方で、一部分では待機列や店舗前の滞留行為が一般通行の妨げとなる箇所が確認された。また、店舗背面がデッドスペースとなり利活用がみられない状況であり通行帯としても滞留スペースとしても利用はされにくい。今後、歩行空間を出店等で活用する場合は、歩道拡幅の必要性がある。

安心安全な歩行者動線の確保のためには、芝生は車椅子では通行帯として機能しないため、ユニバーサルデザインへと更新する必要がある。

イベント利用時などは搬入車両動線が整っていないことが明らかとなり、活用しやすい空間とするためには再検討が必要である。

空間構成・モニュメント



モニュメントは蒲郡駅から竹島ふ頭への人流誘導として有効であることが検証できた。視認性の良いところにあると行動を誘導することに寄与する。ふ頭先端にモニュメントなどシンボリックなものを設置する場合、高さは15m程度あると駅前信号交差点付近からも確認することができる。



モニュメント前は写真を撮る、立ち話をするなどの滞留行動が多く見られ、ふ頭のゲート空間として効果を発揮した。モニュメント位置やサイズについては、さらに検討が必要となる。



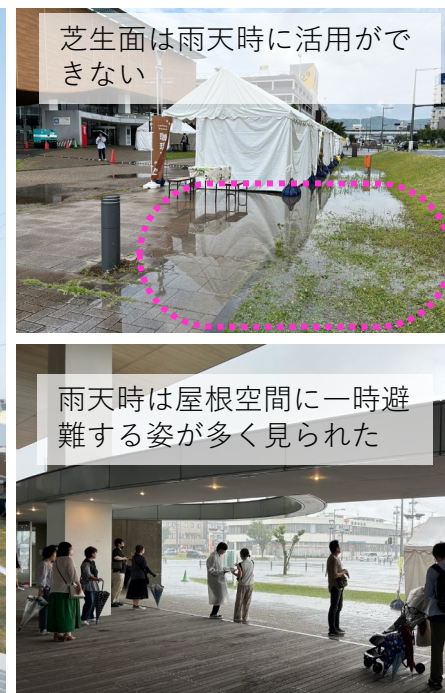
現在の駅からの動線では視認性を担保するのが難しい。



空間の一体性を保つデザインコントロールの重要性が確認できた。

3-3 蒲郡東港地区ポートタウンまちづくりデイズ考察（2）

イベント等の多様な活動を支える空間



パフォーマンス空間や観覧空間の必然性やサイズ感（25m×25m以上）を実証できた。また、雨天時の一時待避場所、日除となる全天候型施設の必要性が明らかになった。春から秋がイベントシーズンであるため、特に南西風・南東風の防風対策の必然性が見られ防風対策が必要である。

全天候型施設のイメージ



阿満遺跡公園「SAKURA広場」
（大屋根広場空間）
寸法：40m×25m
高さ：5-8m
構造：トラス、膜材
設置経緯：「イベント時に横断幕を吊るしたい」「日除け、雨よけになる屋根が欲しい」という声が寄せられたため、活動の多様性が生まれるような開け放たれた屋根空間を作った



電気や音響などの設備の有効性が実証できた。音響は住宅地との位置関係の検証が必要である。様々な活用を踏まえると控室としても使える空間の必要性が確認された。

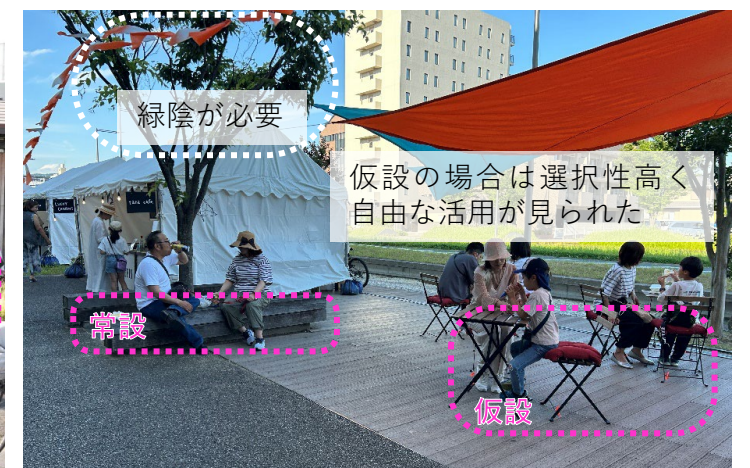
滞留空間



緑地空間の有効性が実感された。一方で、雨天時には避けられてしまう弱点も把握された。



異なる表面仕上げにより利便性を増進、利活用の幅を広げることがわかった。



常設・仮設のいずれのファニチャーの活用もみられ、滞留空間における必要性が把握された。



海側を向く人がほとんどであり、眺めることの居心地の良さが明らかとなった。

活動主体のための場



まちづくりへの参画意欲の高いアーティストが多く、表現の場としての余白が求められている。



集まる空間がコミュニケーション創出に繋がることも考えられる。

3-4 夜間景観の検討

あかりの社会実験の概要

2024年6月1日（一部は8月31日まで継続実施）に、ハード整備の方向性の実証として、以下の内容で照明社会実験を実施しました

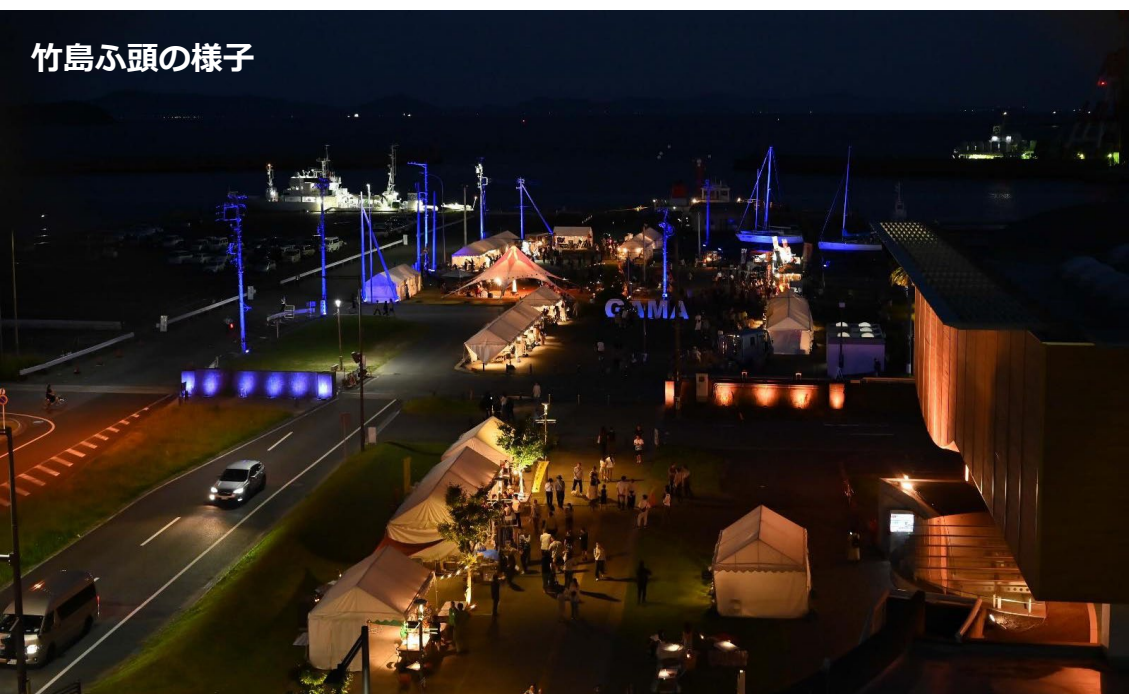
◆目 的

◆実証の手法

◆実施エリア

- ①県道蒲郡港線の夜間景観イメージの方向性検討・・・
- ②竹島埠頭の見通しの探索・・・
『海を感じられる高位置の埠頭ランドマークの価値』の有無
- ③文字モニュメントのイメージと設置効果の確認・・・
- ④既存ランドマーク/工作物の魅力化探索・・・

- ①街路樹ライトアップ、地形を利用した間接照明
- ②埠頭へのランドマーク設置を想定した電柱ライトアップ
H:15mを想定した風船ライトアップによる視認性の確認
- ③文字モニュメント原寸模型のライトアップ
- ④防潮壁と生命の海科学館ライトアップ



現在暗がりとなっているふ頭も、照明演出のある工作物や建築などが点在すれば、安心感も高まり、駅側からの視認性も高まることが検証できました



模型の文字モニュメントによって来場者の行動観察を実施、多くのにぎわいがありました



生命の海科学館のライトアップは魅力的な港湾エリアの夜間景観形成に有効であることが感じられました



防潮壁のライトアップは視野に入る鉛直面の明るさ感を増幅し安心感を高める効果がありました



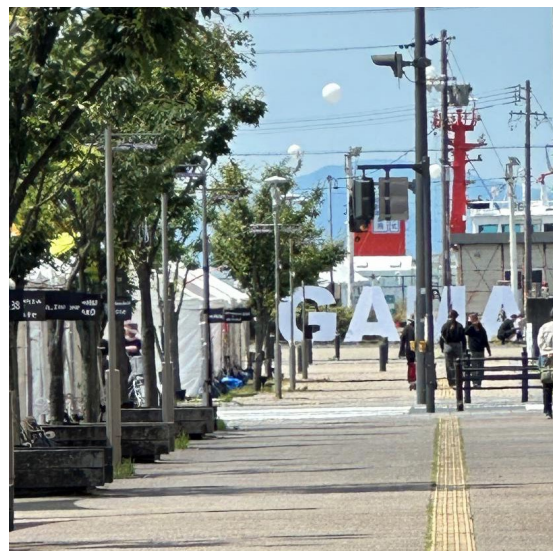
樹木のライトアップとマルシェからの漏れ光があれば、アピタ前のロードの印象も大きく変わります



2列の樹木は照明効果を比較できるような片側の列植だけライトアップを実施、明るさ感が全く異なりました



駅から海が近いことを印象づけるような、竹島ふ頭の先端のランドマーク設置や照明演出の可能性検討として、既存の電柱や防潮壁などのライトアップ、モニュメント模型の設置を実施



蒲郡港線は直線の歩道なので、日中にも見通しのビューが感じられました



ふ頭に大きな光る屋根や点在する光があれば、夜も安心してこのエリアを利活用できると思われます



低位置の間接照明は、歩行の安心感やエリアの上質感的創出に貢献します

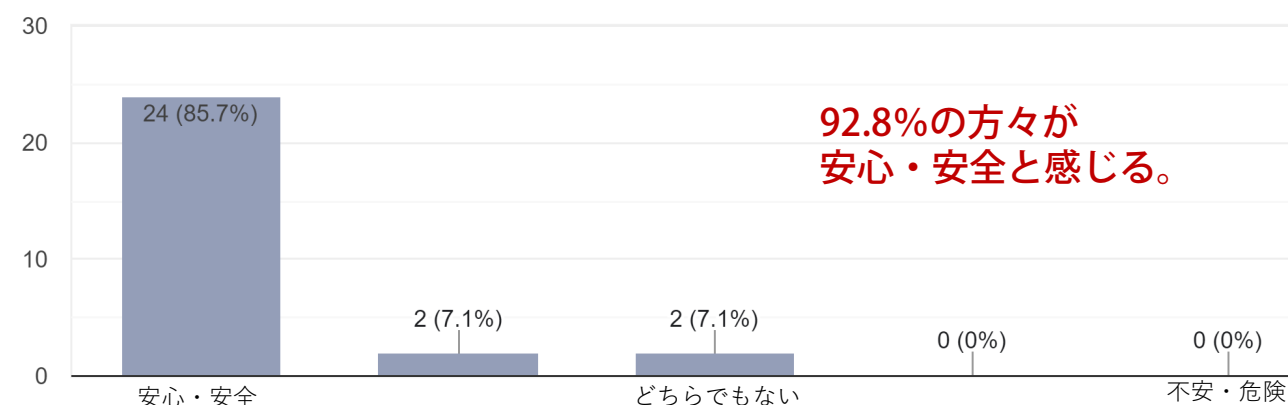
3-5 夜間景観の検討

あかりの社会実験【アンケート調査結果(6月1日に実施)】

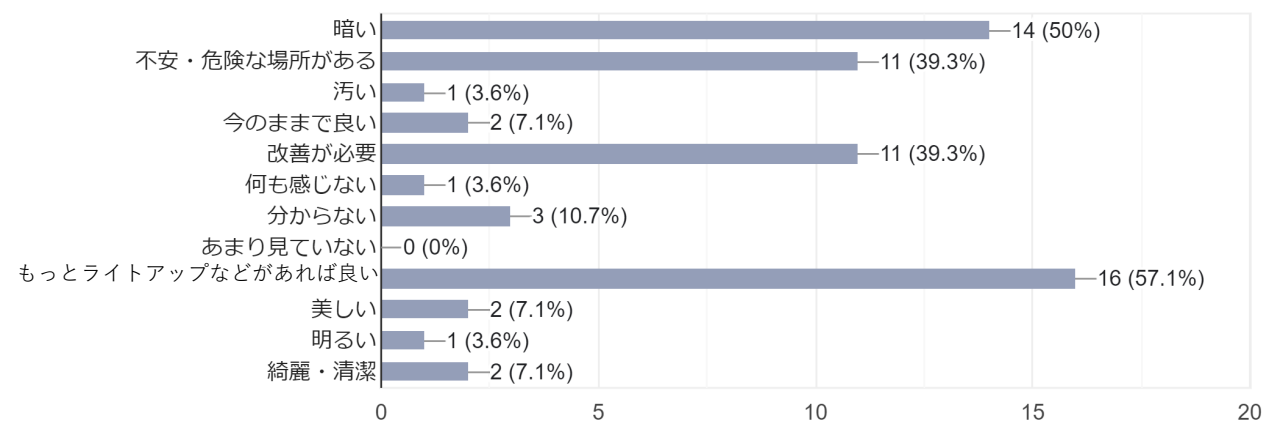
Q1.普段の夜(ライトアップがない状態)と比べてどのように感じましたか？



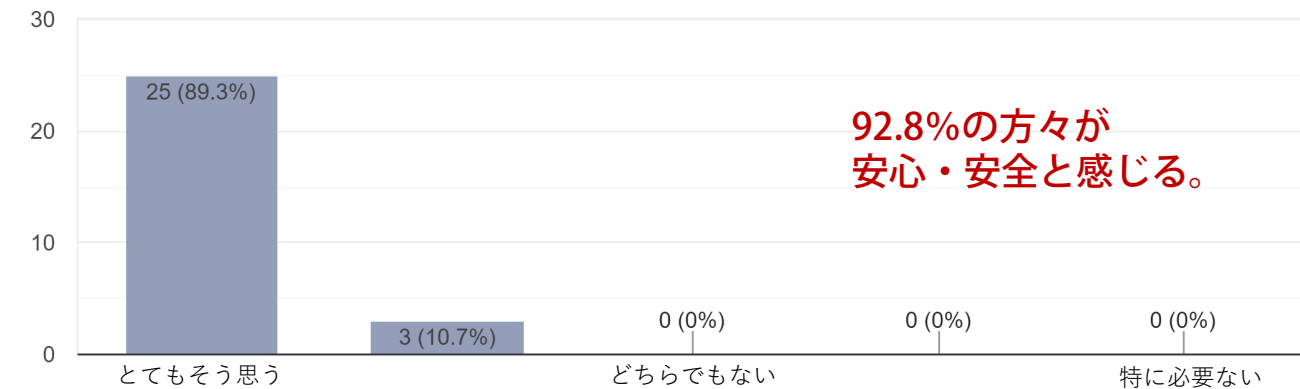
Q2.安全面では、普段の夜(ライトアップがない状態)と比べてどのように感じましたか？



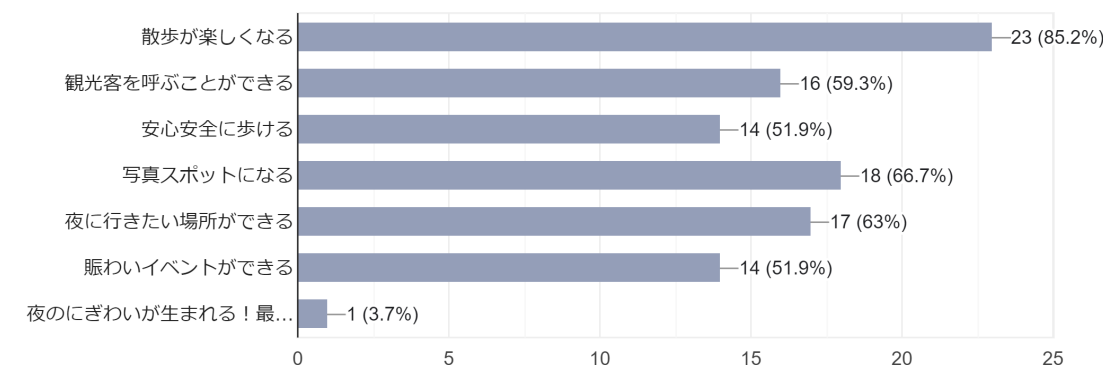
Q3.普段の蒲郡の夜景についてご意見をお聞かせください。



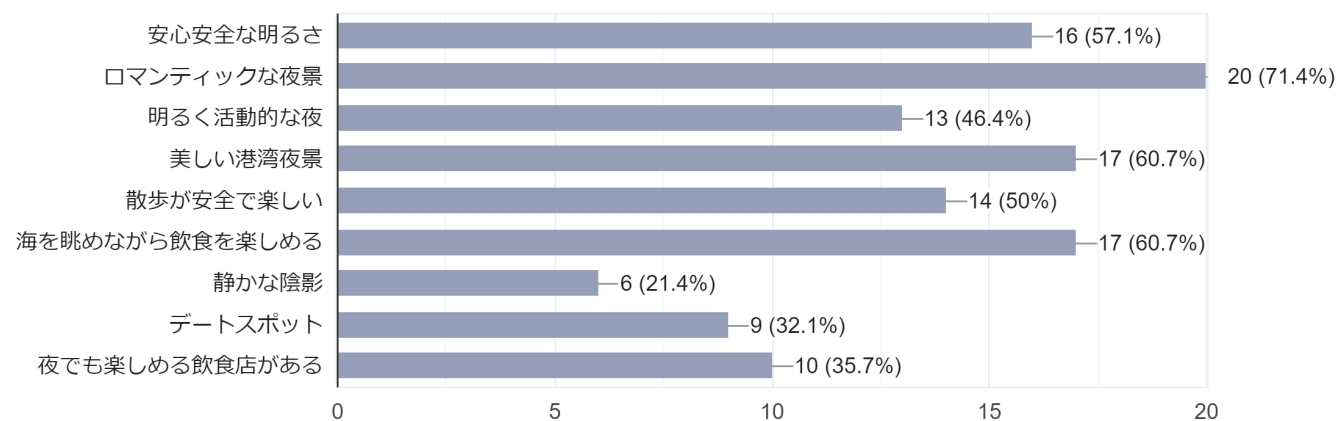
Q4.ライトアップはあった方が良いですか？



Q5.ライトアップで期待できる効果について、どのように思いますか？



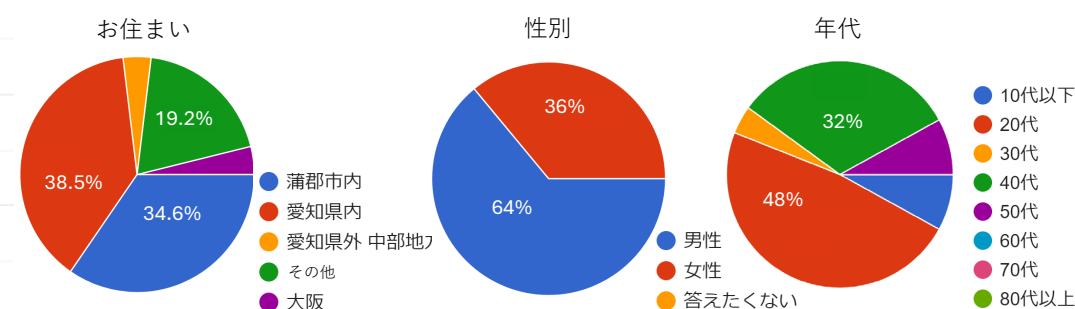
Q6.これからの蒲郡東港に期待したい夜のイメージについて、ご意見をお聞かせください。



Q7.今回のあかりの社会実験について、ご感想・ご意見をお聞かせください。

- ・こういった光景が日常になればいいと思う
- ・屋台のライトアップは良い。日常的にもライトアップを楽しみたい。
- ・GAMA、電柱、アピタ前の歩道の樹木ライトアップ、すべて素晴らしいです。ぜひ常設化してほしい。
- ・モニュメントがあったら良いと思いました。
- ・最高でした！またやって下さい。
- ・絶対にライトアップした方が良い。人が活き活きしている。
- ・今回のように、埠頭やアピタ前などは計画を大きく変えず照明だけで変化が見えると感じた。
- ・GAMAでたくさんの人が撮影していたのでぜひ常設化してほしい！
- ・初めて来たけど、フェスみたいなのに感動しました！！
- ・屋台などの設置、ライトアップ
- ・夜間開いているお店がもっと増えたらうれしい
- ・クリスマスの時期のライトアップはいいと思う。

Q8.回答者のお住まい/性別/年代について



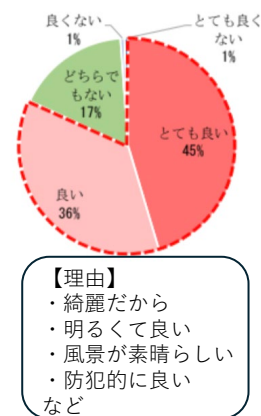
<補足>

2日間に渡り行った来街者アンケート（回答者数503名）では夜間照明について以下のような回答が集まりました

●「とても良い」「良い」が約8割を占める

○年代別：10代、20代は「とても良い」が他の年代に比べて高い（年代が若いほど評価が高い）

居住地別：市民は「とても良い」「良い」が約8割

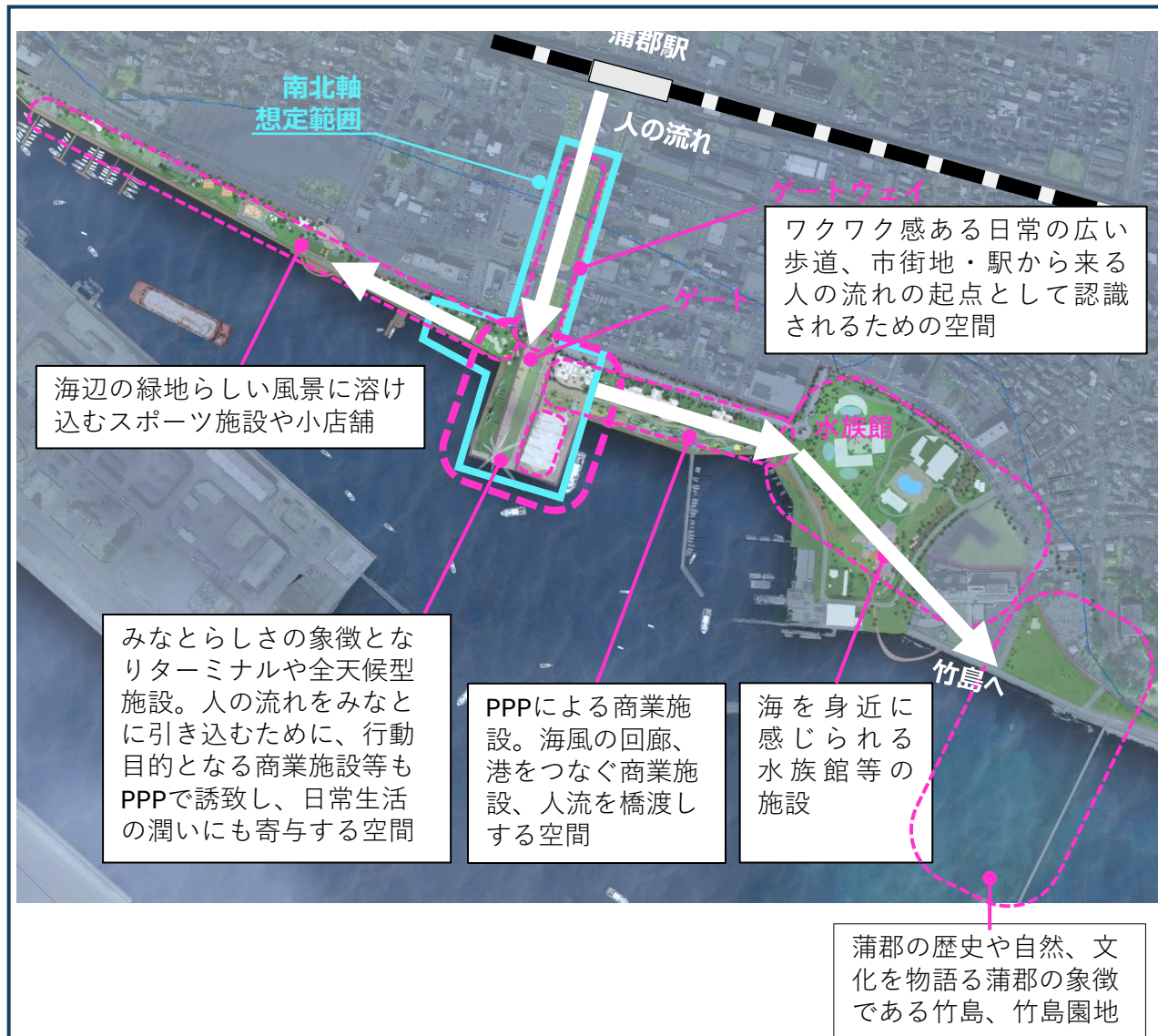


4 東港地区まちづくり 南北軸（都計道蒲郡港線～竹島ふ頭）の先行整備

4-1 唯一無二の“みなと”のまちづくりに向けた東港地区の骨格形成

駅から港をつなぐ南北軸の役割

蒲郡駅から竹島ふ頭に象徴される南北軸、そして、人気の観光スポットである竹島水族館、竹島までの空間をブロック化し、人の流れをつくることを検討するときに、市街地や駅からの起点となるのは蒲郡駅から海へと延びる都市計画道路蒲郡港線です。そして、その先から、すでに人気の観光スポットである竹島水族館や竹島へと人の流れを形成するには竹島ふ頭を魅力ある空間にしなければいけません。



市民から求められている「コンテンツを実現するには民間活力導入が不可欠

南北軸を先行整備がプロジェクトエリア全体の事業推進に繋がると考えられる理由

- ① 駅からみなとへの人の誘導を担保し、みなと全体の再開発を誘発する“人の流れ(動線の確保)”を創出
- ② ポートタウンまちづくりデイズ（社会実験）により、南北軸の活用とみなとへの人の誘因が実証された
- ③ 官民連携の事業推進を進めるべく、民間の事業スピードに合わせた開発の基盤づくりが必要

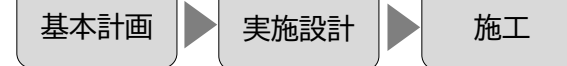
南北軸の先行整備の方針

(1) 従来と異なる開発手順による事業推進

公共事業と民間事業とでは、意思決定の段階と事業スピードの違いが大きく食い違うということを理解した上で、それらを組み合わせた事業スケジュールを組む必要があります、これまでと異なる事業手法③が求められます。

① 単一事業者で完結する開発手順（行政主導の従来の開発）

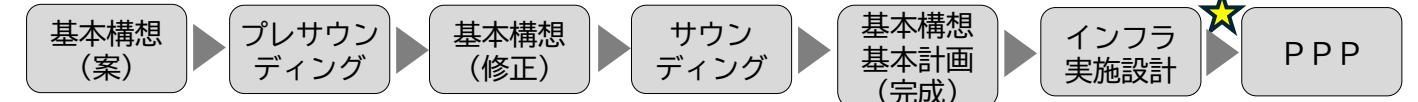
★ 民間事業者の進出意思決定のタイミング



② 民間事業者1社のPPPが主となる開発手順（図書館などの公共施設）



③ 民間事業者のPPPを一部含む行政による開発手順（本事業を含む複合的な官民連携のPPP事業）



多様な事業規模や業態の民間事業者の参入を可能とするため ① 制度の活用 ② 公民分担バランスの異なる事業スキームの活用を想定

① 制度の活用

みなと緑地PPP（港湾環境整備計画制度）
ほこみち（歩行者利便増進道路制度）

② 事業スキーム

公設民営（民による公的サービス提供）
民設民営（企業支援型） 等

(2) 事業者誘致を促し、実現性を高めるための戦略的先行整備

一般的に、PPP（Public Private Partnership）による民間事業者の参入を想定した開発事業における民間事業者の進出意思決定は「3～5年後までに開店、または店舗工事着手の担保が図られた段階」と言われています。（開店までに6～10年を要する場合は、助成金があるなどかなりの好条件でなければ事業者誘致は難しくなります。）

東港地区開発事業の民間事業者の参入の可能性を高め、効果的に開発を進めるために

▶ 民間企業の立地できる状況を速やかに整える必要がある

- ① 基盤整備
- ② 都市計画変更手続き
- ③ 市街化編入手続き 等

▶ 民間事業者との対話を並走し事業参入の精度を高める

港湾の未利用地(暫定利用用地除く)における民間活力導入を目指した土地利用に向けた工程

空間デザイン検討・民間事業者対話

都計道蒲郡港線 降格（県道⇒市道）

実施設計

都計道蒲郡港線の都市計画変更（4車線⇒2車線）

民間資金活用に関する事業化に向けたサウンディング調査

竹島ふ頭面整備
竹島ふ頭以東、市街化区域編入及び臨港地区指定等

都計道蒲郡港線再構築

竹島ふ頭以東、インフラ整備等

民間事業者進出

4-2 南北軸のデザイン方針

【東港地区まちづくりの3つのコンセプト（案）】

※昨年度マスタープラン検討資料より抜粋

小さく紡ぎ、時代に寄り添う柔軟なまち

車圏域に大型商業施設が立地する東港地区において、大規模再開発によるビジネスモデルでは、生き残り戦略と独自の魅力形成が厳しいと考えられます。そのため、多様な業態業種、事業規模による複合的なまちを形成し、小さく成長し続ける東港地区を目指します。

暮らしを楽しむウェルビーイングを体現する唯一無二のハーバー

コロナ禍をきっかけとした新たな生活様式の変化や社会情勢の変化とともに、暮らしに求められるものが変わりました。東港地区では、海との近さを大切に、固有の価値観を形成する、唯一無二の“みなと”まちを形成します。そして、身体的、精神的な健康だけでなく社会的にも満たされるウェルビーイングなまちに向けて歩みます。

地域資源の活用とアートが創造する『観光』で成長するまち

地産地消や地域経済循環を大切に、市民が自分たちのまちの未来をつくるローカルファーストなまちづくりとします。市民や地域の事業者がチャレンジできる場づくりや既存資源の魅力を顕在化するとともに、クリエイティブなアートの視点を加え、新しい文化拠点を醸成し、蒲郡市全体の活性化へと繋がります。



< 駅前上空から見た港へつながる風景イメージ >

※大まかな空間構成を見せるものでありデザイン空間は検討中です。

【南北軸空間デザインコンセプト（案）】

つなぐ・みなと・みらい

蒲郡駅・ゲートウェイ・ゲート空間・ターミナルをつなぐデザイン

南北軸を先行整備することで、プロジェクトエリア全体の整備に波及させ「みなと」を軸としたまちを形成します

蒲郡のシンボルである竹島や海へ ゲートウェイとしての役割

- ・港を感じさせる回廊的景観、ドラマチックな照明デザインにより陸と海を結ぶ風景
- ・緑陰が現在の県道蒲郡港線にはない、駅からふ頭までの力強いビューコリドーの形成

みなとのランドマーク性 コミュニティのシビックプライド

- ・蒲郡のシンボルとして市民の心の拠りどころ、港を軸とした象徴的空間の形成
- ・まちのアイデンティティやコミュニティとしての一体感を感じられるランドマーク性のデザイン

災害への備えにプラス 利活用の可能性と景観性

- ・玄関口としてのシンボリックで意匠性高い空間でありながら、災害に対する備えを整えた施設配置
- ・盛土やステップ、スロープを組合せた基壇、展望テラスなど、機能性と景観性を備えた多様な施設

港を眺めたくなる夜景、 歩いてみたくなる灯り

- ・港を感じさせる回廊的景観、若年層を呼ぶドラマチックな照明デザインにより陸と海を結ぶ風景
- ・暗がりを作らない怖くない寂しくない埠頭

日常生活を豊かにする みんなが活躍できる機会の創出

- ・多様な業態業種・事業規模による複合的なまちの形成、民間活力と一人一人のパワーでつくるサステナブルで魅力にあふれ活躍の機会を形成
- ・日々の生活の場とイベントなどの非日常性を担保する空間構築

象徴性と人流を誘う空間のデザイン

- ・みなとへつながる動線を実現と南北軸から東港全体に広がるウォークブルな空間の創出
- ・ふ頭先端の拠点化（ターミナル機能、全天候型広場、みんなので使える拠点）等、象徴性あるスポットをデザイン
- ・楽しい歩行空間や滞留空間、涼やかな水景、ポップアップ店舗設置などいきたくなる仕掛けを検討します。

5 南北軸先行整備範囲及び概要

特記：空間構成を表現する参考イメージです。デザイン及び材料選定は検討中です。

5-1 市民協働成果を反映しながら進める南北軸のプランづくり

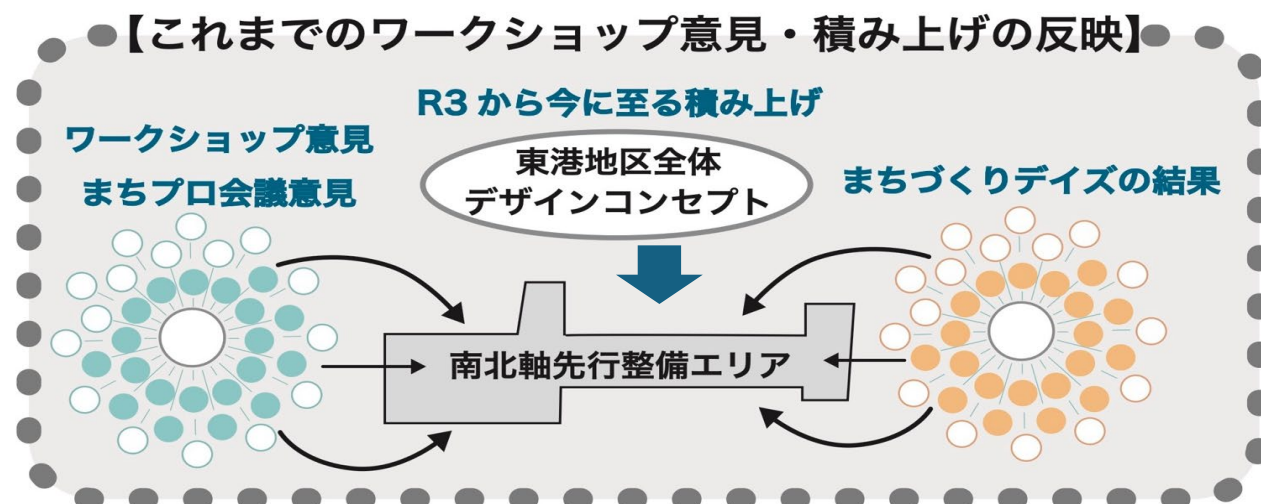
■ 南北軸位置図及び整備範囲

- ・駅前交差点部分、アピタ前・科学館前歩行空間及び竹島ふ頭を整備範囲とします



■ 市民協働成果の反映

- ・ワークショップでの皆さんの意見、社会実験の結果を踏まえて検討しています



■ 南北軸整備範囲拡大図及びゾーニング

- ・利活用の幅を広げるため歩行空間拡幅、車道2車線化の妥当性を確認し協議を進めています
- ・駅前から竹島ふ頭までを一体的にデザインし、南北軸の賑わいを東西に広がっていきます



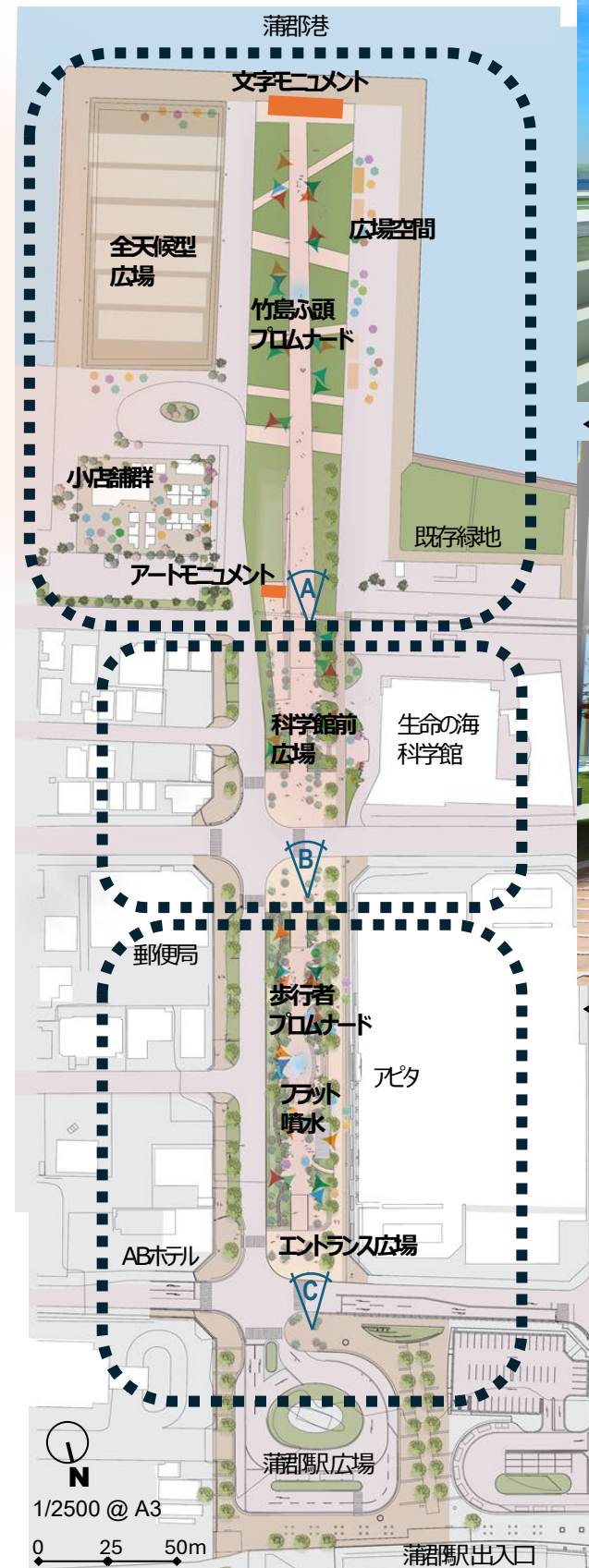
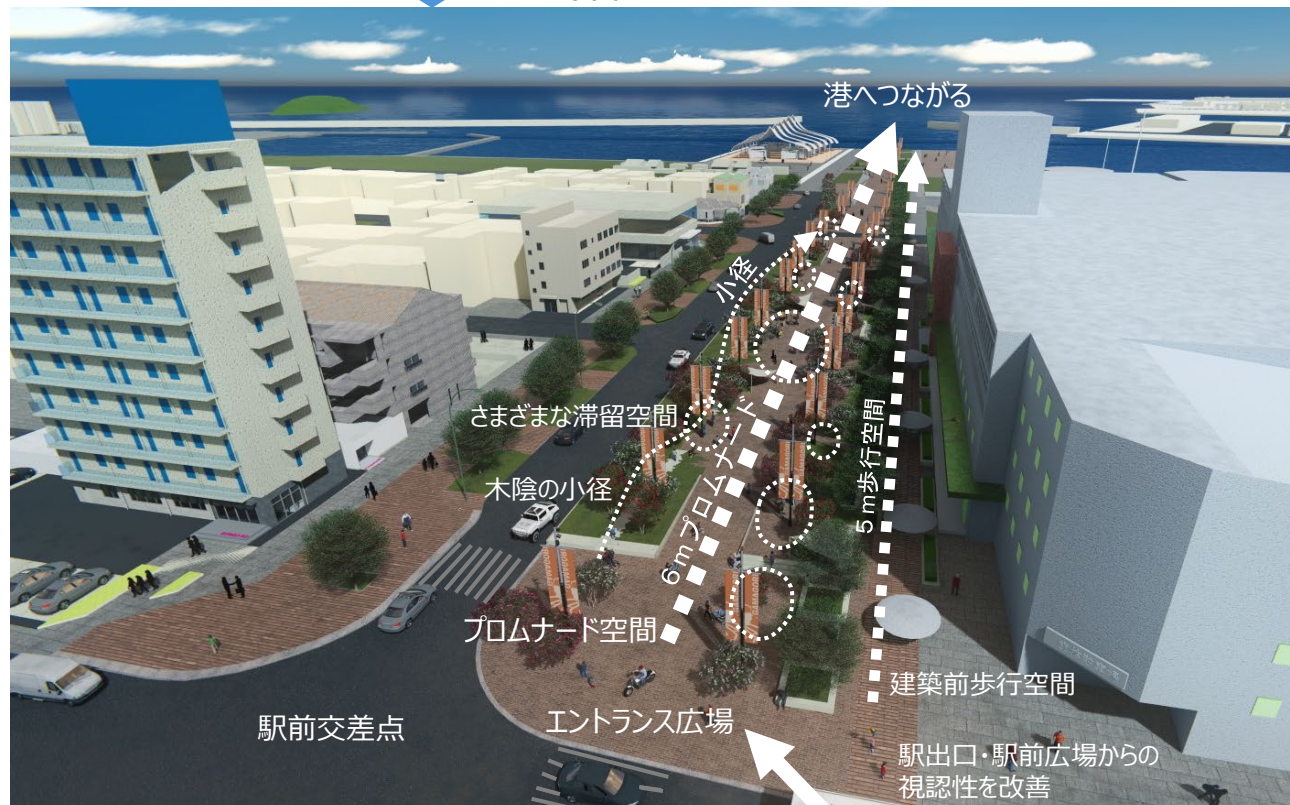
5-2 港へつなぐ歩行空間のシーケンス、海へとつづくビスタ

■ 駅から港へ 南北軸全体

- ・ 交通量に合った車線数、利活用を広げる歩道幅、港が見える直線状の豊かなゲートウェイ空間を実現します
- ・ まちから海、駅から港へと、人の流れをいざなう駅前どおりに相応しいストリートスケープを検討します
- ・ 防潮壁と防波堤の間に青い海が見えるデザイン軸とちょうど良い高さ設定がつくるプロムナードを形成します



上図：駅前広場からの俯瞰パースペクティブ
下図：パースペクティブ・ダイアグラム



＜視点場 - A＞ 竹島ふ頭エントランス風景



＜視点場 - B＞ 郵便局前交差点から港を臨む



＜視点場 - C＞ エントランス広場（駅前交差点を渡って港を臨む）

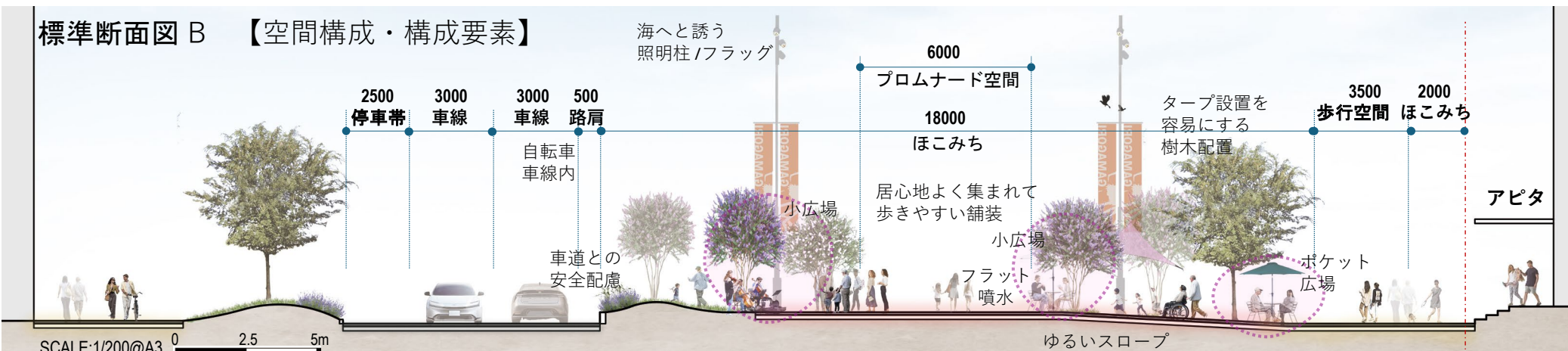
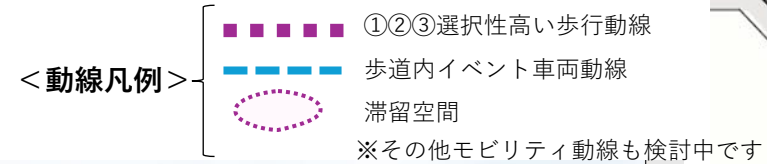


5-3 南北軸 – ゲートウェイ空間に相応しいしつらえ その1

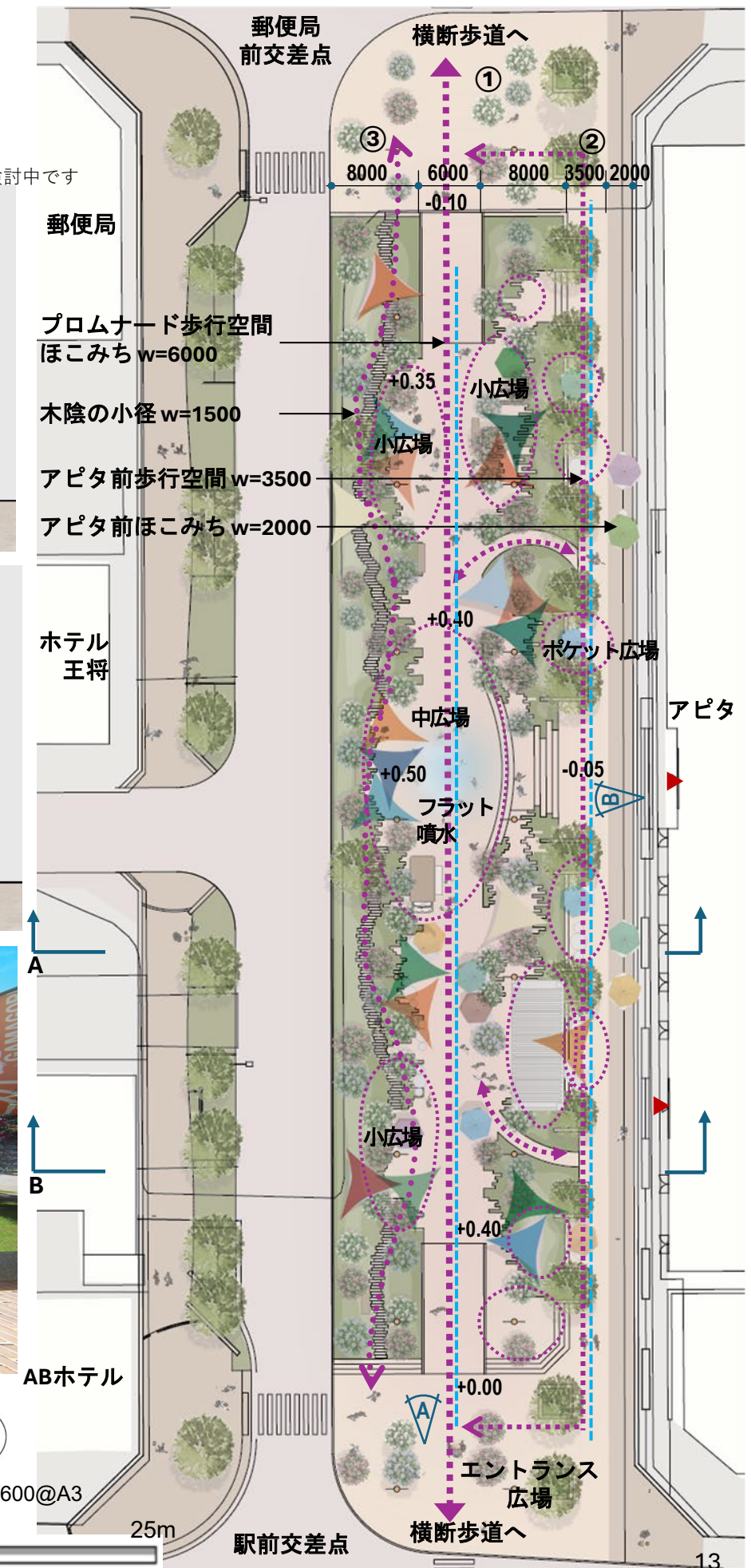
■ 県道蒲郡港線 アピタ前

- ・選択性が高く、だれもが楽しく使える安全安心な歩行者動線を検討します
- ・わかりやすく、便利な歩道内車両動線でイベント開催を容易にします
- ・多世代で使える憩いのスペース、多様性のある活動空間を提案します

右図：県道蒲郡港線 アピタ前 拡大平面図



■ 滞留のためのさまざまな工夫 – たくさんの「すわる」 + いろいろな「つかう」



5-4 南北軸 – ゲートウェイ空間に相応しいしつらえ その2

■ 県道蒲郡港線 生命（いのち）の海科学館前

- ・ アピタ前から更に港へ、ゲートウェイはついに、港へのゲートへと近づきます
- ・ 郵便局前交差点を渡るとプロムナードは、科学館前広場と展望テラスを結びます
- ・ 家族連れに人気の科学館前は安心安全な歩行者専用空間、広場空間として検討します

■ 港へのゲートウェイ空間に相応しい植栽デザイン

・ 耐潮性が高く骨格形成にふさわしい街路樹選定



既存街路樹のケヤキ、サルスベリの状態を確認し改善検討をおこなう。新植としては**耐潮性の高いアキニレ**などを骨格形成樹として検討する。

・ 海辺を彩り、花咲く並木、港へのプロムナードを飾る



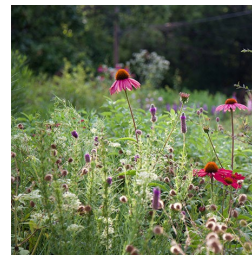
海辺の雰囲気を作り、**華やかさを演出する**サルスベリをリズムカルに配置する。紅、ピンク、白など花色を混ぜ、彩りを楽しめる植栽計画とする。

・ 海辺のさざなみのようなブロック舗装と省管理芝



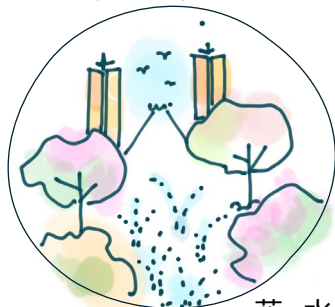
地被の緑は、足元から涼感を与え、透水性を高める、海辺の**さざなみを思わせる**舗装と一体となった意匠を検討する。省管理改良型の芝生を検討する。

・ 省管理で美しく収まる低木地被植栽

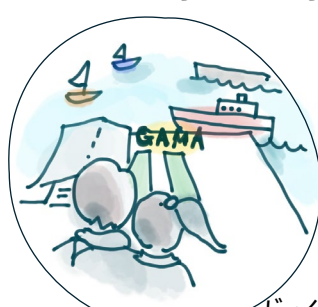


宿根草を中心に、省管理でも低く**きれいに収まる**樹種を選定する。車道との歩行空間の境界部にも省管理な**バッファー植栽**デザインを検討する。

■ その先を見たくなる風景づくり – 近景と遠景の「ながめる」



花、水、フラッグの近景
その先の遠景をながめる



じっくり座って
港の風景をながめる



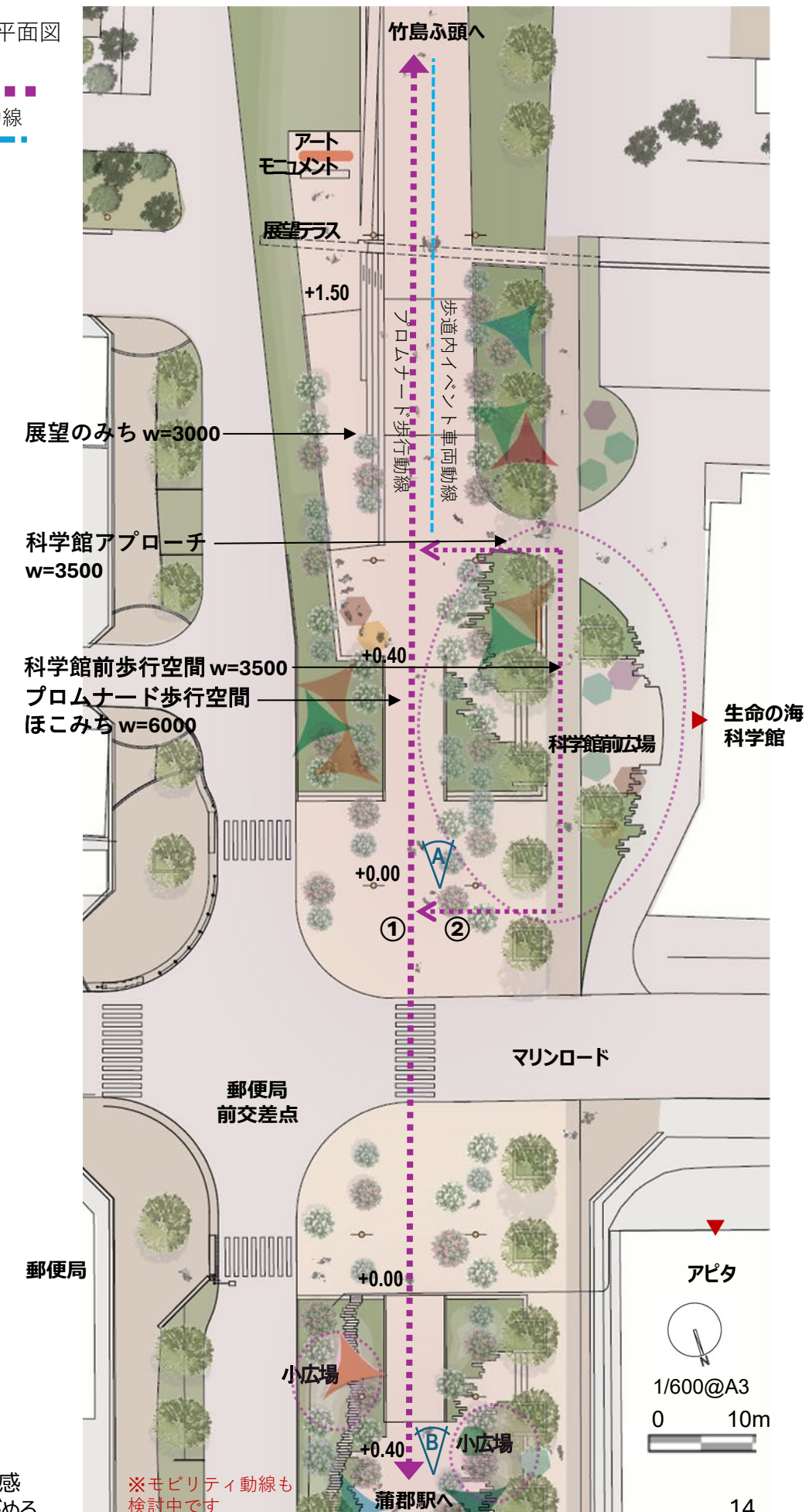
展望台からの
サプライズをながめる



歩いて感じる期待感
港へのビスタをながめる

右図：県道蒲郡港線 科学館前 拡大平面図

<動線凡例>
①②歩行動線
歩道内イベント車両動線

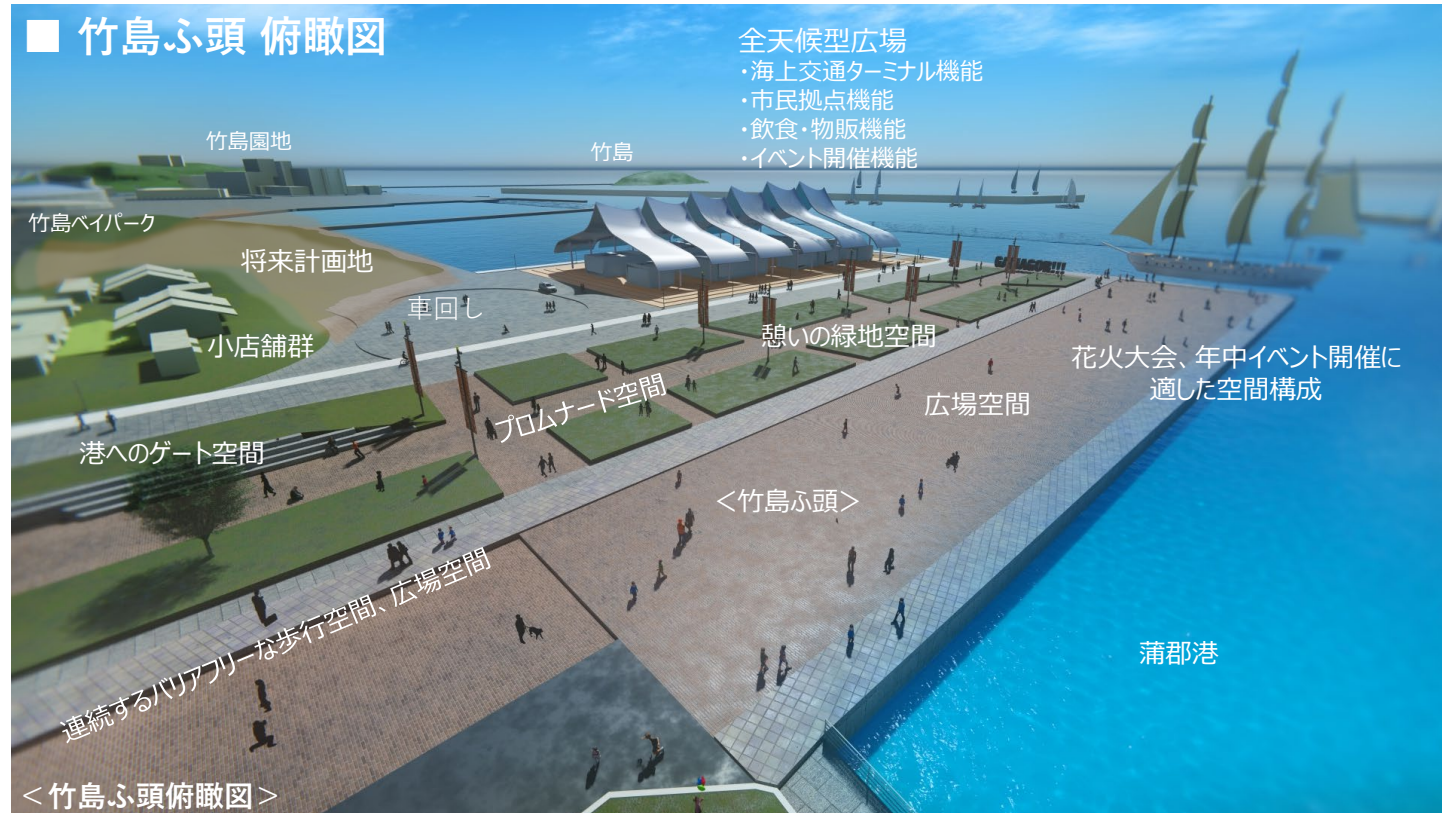


5-5 南北軸 – ゲートウェイから港のゲートへ、海の玄関口に相応しい意匠性と機能性

■ 竹島ふ頭

- ・港の機能、毎日の暮らしのウェルビーイング、特別な日の利活用が共存する空間を目指します
- ・海の玄関口の晴々しい風景をつくる意匠デザインと活用の幅を広げる機能デザインを両立させます
- ・港と緑、舗装広場と緑地空間の最適なバランスの配置計画で、竹島ふ頭の可能性を最大限に広げます

■ 竹島ふ頭 俯瞰図



■ つかいこなしのための工夫

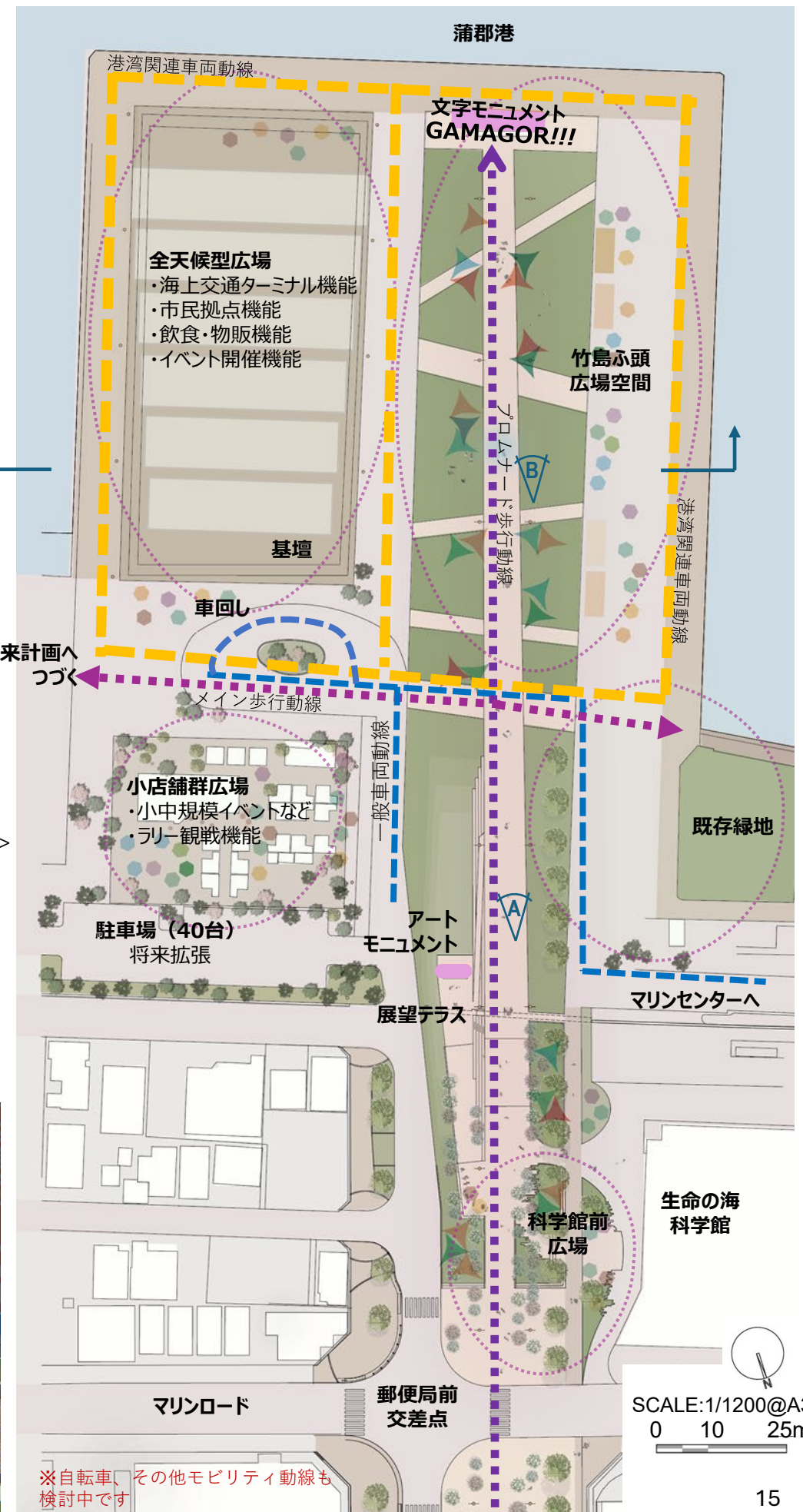


断面図C



＜凡例（右図）＞

- ①②歩行動線
- 一般車両動線
- 港湾車両動線
- 滞留空間



6 南北軸エリア – 夜間景観

6-1 夜景平面図及びエリア別デザイン方針

駅前から港へと誘う『あかりの回廊』

～輝く路面・はためくフラッグ・安心感をつくる木立のあかりとシンボリックモニュメントのある港夜景の創出～

Zone C : 水際の夜景ランドマーク

象徴的なランドマークや光のエンターテイメントによる魅力的な新・ふ頭夜景の創出

- ・東港を象徴する光の創出
- ・建物の魅力を活かす
- ・船舶岸壁の魅力を活かす

Zone B : 海辺の明るい芝生広場

ゆったりとした芝生の広場は、安心感のある明るさを付与

- ・夜に過ごしたくなる、集いたくなる明るさと陰影
- ・広さを阻害しない照明配置
- ・安全安心を確保

Zone A : 蒲郡駅から竹島ふ頭へとつなぐ『あかりの回廊』

プロムナードらしい、駅と海をつなぎ、人々を海へと誘うあかり

- ・象徴的なフラッグのたなびく街路照明は、路面にはっきりとした明るさをつくるスポットライトポール照明
- ・街路樹のライトアップが明るさ感を高め、歩きたくなる環境を創出
- ・賑わい利活用を補完する電気設備
- ・ベンチ/小壁間接照明 / 生命の海科学館ライトアップ

Zone F : 港の境界ゾーン

あかりの効果で防潮壁もランドマークに

- ・アートモニュメントライトアップ
- ・防潮壁ライトアップ
- ・樹木ライトアップ

Zone D : 全天候型大屋根広場

天候に左右されず活動できる広場照明

- ・幕屋根を照らす象徴的なカラーライティング
- ・ふんわりと包み込むような機能照明

Zone E : ラリーステージ

ステージライティングを装備した車寄せ広場

- ・切り替えできるスポットライト演出

基本仕様（東港地区・全エリア共通）

- ・安心安全：危険な暗がりをつくらない照明計画
- ・落ち着きと上質さを感じさせる電球色を基本とする
- ・「夜間景観ガイドライン」を策定し、開発時期の異なるエリアや既存エリアも含めた「蒲郡のあかり」のルールづくり
- ・建築・ランドマーク・樹木・パブリックアート・モニュメントを活かす灯
- ・サーキュラーシティの考え方に基づく省エネルギーを、照明制御/光源選択/配灯の工夫で実現

6-2 各ZONEの整備イメージ ①

- ①海辺へいざなうあかり：フラッグ付きのハイポールと並木のライトアップの連続性によって、駅側から海に向かう軸線を印象付け、見通し時に期待感が高まる効果を狙います。また段差やスロープも明るく照らします。
- ②樹木のあかりで安心感を獲得：幹から照らす樹木のライトアップは、四季を感じさせると共に安心感を高めます。
- ③歩道・広場の利活用を支える：広い歩道をしっかりと明るくするスポットライトにより、グランドレベルの明るさを確保すると共に、照明柱を利用したイベント用電源の供給を検討、店舗の漏れ光が映える照明手法を採用。
- ④時間ごとの点灯管理：象徴的なフラッグ付ハイポール照明は時間によって明るさを調光し、深夜の大幅な省エネルギーを実現します

ZONE A：アピタ前

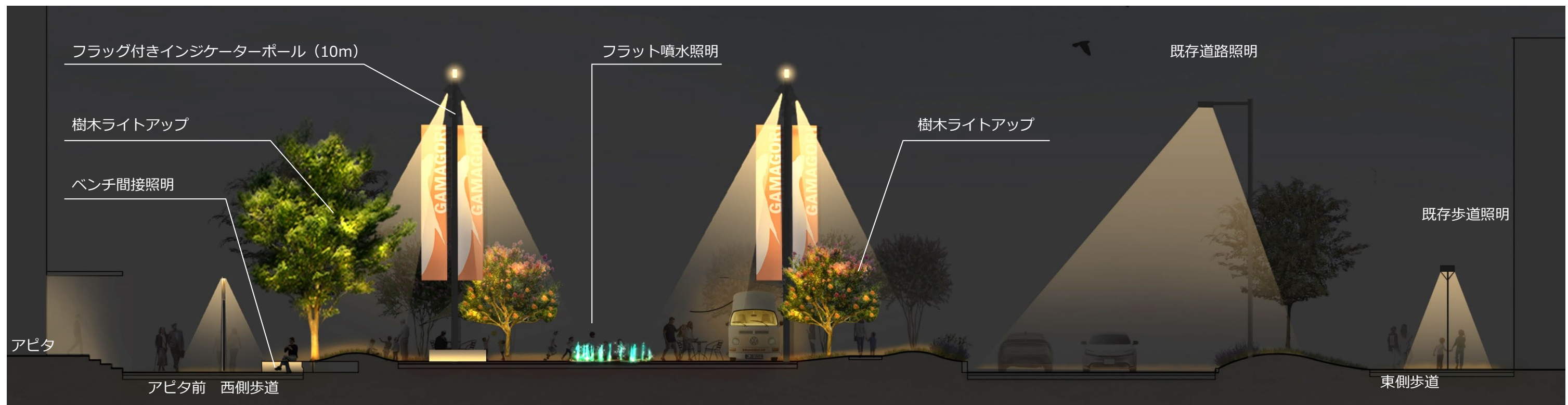


6-3 各ZONEの整備イメージ ②

ZONE A：生命の海科学館前

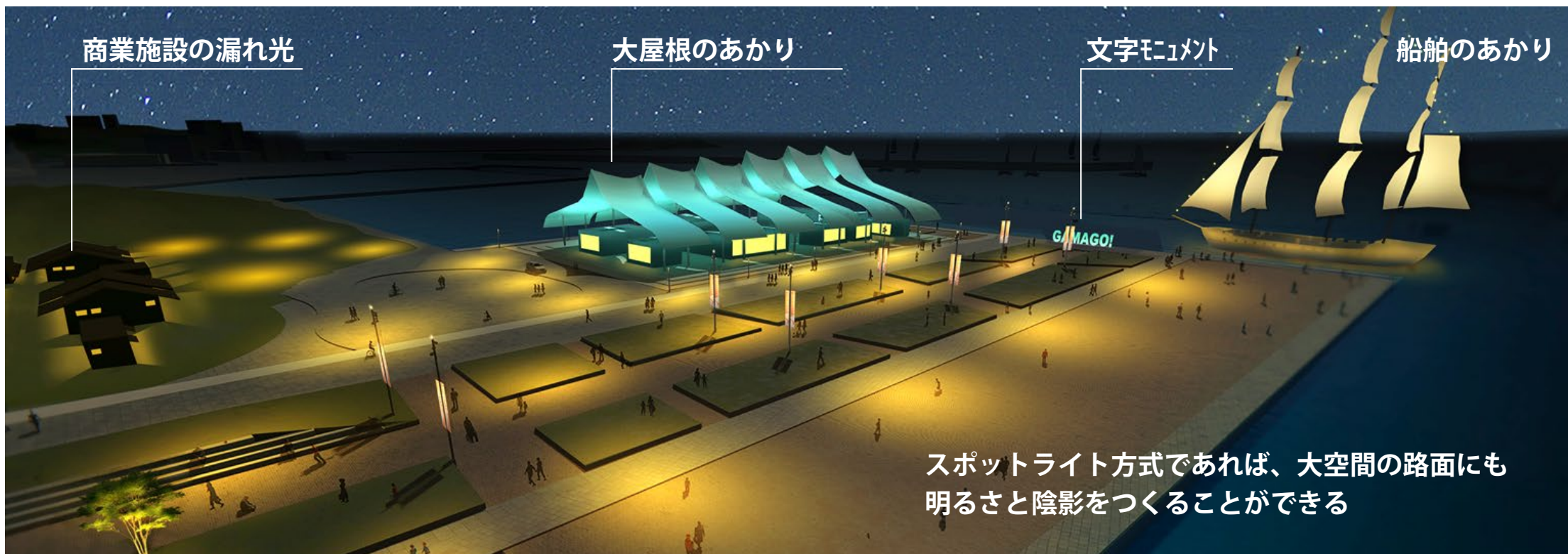


防潮壁同様の高さのある展望テラス付近には、若々しいイメージの現代アート・モニュメントを配置
未来の東港ウォーターフロントのイメージをけん引する
(事例：三沢厚彦作 KOBE Bear)



6-4 各ZONEの整備イメージ ③

ZONE BCDE：【竹島ふ頭のイメージ】

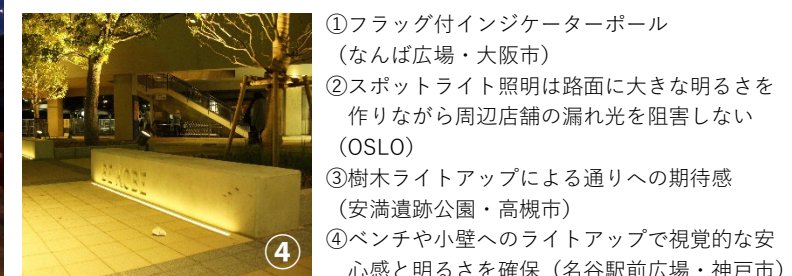
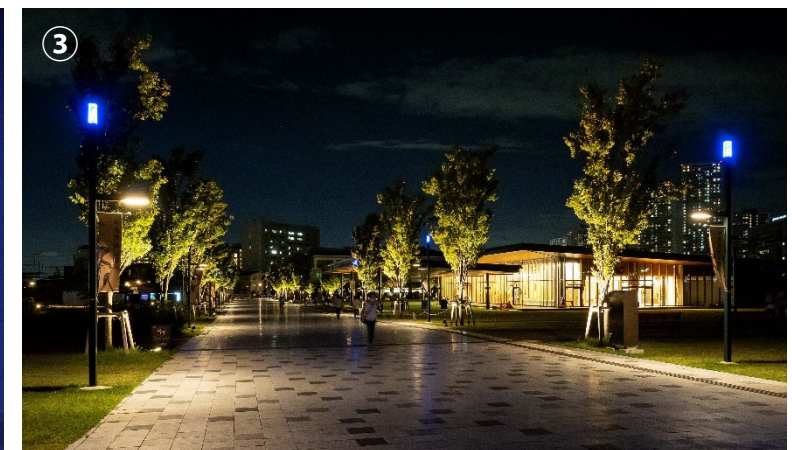
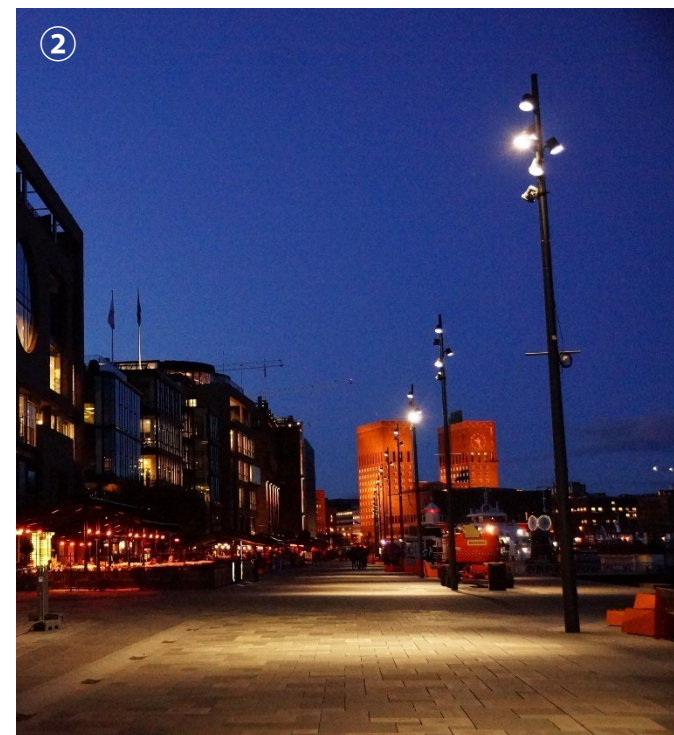
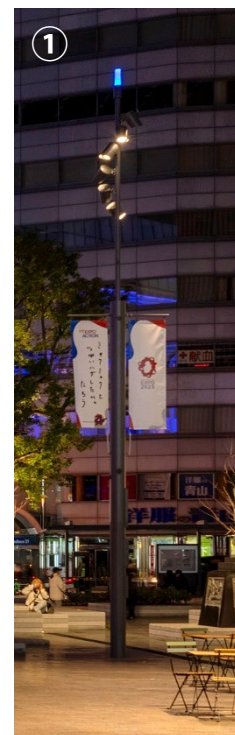


6-5 各ZONEの整備イメージ ④

鳥瞰イメージ



仕様（案）



■照明器具の仕様例

- ・歩車道を印象的に照らすスポットライト方式の街路灯
H10m 2700K 5000lm 13° 42Wクラス LED x 4灯
- ・ロングフラッグサイン
素材：有孔ターポリン シルク印刷
- ・樹木を活かすライトアップ
LEDスポットライト 20Wクラス 3000K 1500lm 40°

- ・ベンチ下間接照明もしくはベンチ前埋設間接照明
LEDドットレステープライト 2400K（埋設型含む）
- ・アートモニュメント用照明
埋設型LEDバリードライト 27Wクラス 2700K 2000lm 40°
- ・文字モニュメント用照明
埋設型LEDラインライト マルチカラーLED 20W/m程度

7 市民による利活用

7-1 南北軸整備に係る継続的社会実験について

市道駅南1号線及びみなとオアシスにて「活用のトライアル」

- ・活用に向けて、どのような利用方法があるのか、実際に活用してみたい方との“対話”の場を設けて、ヒアリングをしています
- ・施設の利活用方法の検討を目的として実際に活用していただくため、施設の利活用方法の検討を目的として活用していただきます
- ・民間主体による日常的な公共空間等の活用に向け現地経費の負担は行いませんが、手続き等の支援を予定しています

1) 市道駅南1号線における歩行者利便増進道路（通路：「ほこみち」）制度活用トライアル

- ・場所：蒲郡市港町地内
- ・路線名：市道駅南1号線（県道蒲郡湊線の西側沿いの歩道）※アピタ蒲郡店・生命の海科学館東側の歩道
- ・延長：150m／幅員：17.5m（せせらぎ等平面以外の部分を含む）



2) みなとオアシスがまごおり（交流スペース）活用トライアル

- ・場所：蒲郡市港町地内「みなとオアシスがまごおり」
- ・みなとの振興に繋がる企画



ヒアリング結果（市民の活用意向）

- ・ヒアリング参加数：10組
- ・実施日：2024年9月24日～10月3日

主体的に活用したい方が多くいることがわかり、小規模から大規模イベントまで主催側のニーズも非常に高いことが分かった。各主催者と協議を進め、具体的な活用を始めていく予定である。

活用時の共通ルール(抜粋)

- ・企画、準備、備品等の手配、運営など全て提案者が主体となり実施すること
- ・開催告知を希望する時期の1か月以上前に、具体的な企画書を提出すること
- ・公共施設を民間が使用するにあたり、公益的な視点や港の振興を持った企画内容とすること
- ・ほこみちは公益的な活動として、植樹樹の除草等の施設の「維持管理に寄与すること
- ・市が行うみなとオアシスの草刈りは年2回となるので、その他の時期に草刈りが必要な場合は自身で草刈りを実施して頂くこと（公益的な活動として実施して頂きたい）

活用希望者の提案概要

- 参加者A** まちプロジェクト 会議参加者 **オアシス** **ほこみち**
- ・なやばし夜市のようなイメージで100店舗ほどの夜市を開催したい
 - ・「ほこみち」と「オアシス」を一体的に活用
 - ・地元の企業と連携したい（アップサイクル、サーキュラーエコノミー）
 - ・毎月もしくは毎月定期開催したい

- 参加者B** まちプロジェクト 会議参加者 **オアシス** **ほこみち**
- ・「ほこみち」では定期朝市を開催したい（月1月曜希望）
 - ・子育て世代の女性やアピタ買い物客をターゲットとする
 - ・「オアシス」では家族をターゲットとしたイベント等（第2希望）

- 参加者C** **オアシス**
- ・多肉植物の栽培・販売をいかし、蒲郡多肉フェスタを開催したい
 - ・オアシスの空間を大変気に入って、活用したいと思った
 - ・来年秋頃の休日を予定
 - ・30店舗の出店を想定している

- 参加者D** まちプロジェクト 会議参加者 **ほこみち**
- ・市内在住の人をターゲットとした、ひととひとを繋げられるようなイベントをしたい
 - ・市内の市民活動団体を集め、交流の場としてネットワーク形成につなげたい
 - ・コミュニティカフェスペース等も検討
 - ・年4回20組程度参画する想定
 - ・ロープ産業との繋がりも検討したい

- 参加者E** まちプロジェクト 会議参加者 **オアシス** **ほこみち**
- ・「ほこみち」ではシーズンごとのマルシェを開催したい（飲食物販の出店と音楽など）
 - ・まずは2024年2月2日にバレンタインフェスタを開催したい
 - ・「オアシス」では、現在俊成園で開催している竹島ガーデンピクニックを開催したい
 - ・スポーツをテーマにした企画内容を考えている

- 参加者F～H** まちプロジェクト 会議参加者 **ほこみち**
- ・毎月開催の定期市を行いたい
 - ・小さい規模から定期的実施する
 - ・アピタ利用者をメインターゲットとして、自身のお店のPRにも繋げたい
 - ・まちプロ会議のメンバーと一緒に企画運営を進めていく

- 参加者I** まちプロジェクト 会議参加者 **オアシス** **ほこみち**
- ・シーズンイベントとして、子どもやファミリー向けのハロウィン、クリスマスイベントやミモザをテーマにしたイベントを開催したい
 - ・将来的には、子育てする方のための活動に繋がっていききたい

- 参加者J** **オアシス** **ほこみち**
- ・「ほこみち」では、キッチンカーが並ぶイベントをしたい
 - ・金曜夕方から土日開催を希望
 - ・「オアシス」は吹奏楽コンサートと市内飲食店の屋台村を開催したい
 - ・シーズンごとの装飾も検討する

8 フェリー特別運航社会実験

8-1 みなとの風景を取り戻すための取り組み

『蒲郡・鳥羽間』不定期航路の特別運航およびターミナルの検証

竹島ふ頭から旅客船が行き来する港の風景を取り戻す取り組みとして、市制70周年の鳥羽市と蒲郡市をフェリーで結ぶ特別運航を実施しました。同日に、仮設ターミナルを設置し、機能や配置等を検証しました。

日時：10月12日(土)・13日(日)・14日(月祝) ターミナル営業時間：8:00～18:00
運航ダイヤ：蒲郡発 9:00、13:40、18:30 / 鳥羽発 11:20、16:10
総乗船者数：約2,500名

- 海上交通のターミナルとして竹島ふ頭にどのような機能が必要なのか
- 旅客船、鉄道、自動車などの交通結節点としての利便性の評価
- 運航に関する事業の可能性を調査

伊勢湾フェリー特別運航チラシ



主催：伊勢湾フェリー株式会社／共催：蒲郡市、鳥羽市／後援：一般社団法人蒲郡市観光協会、一般社団法人鳥羽市観光協会

仮設ターミナル社会実験チラシ



主催：蒲郡市、企画運営：蒲郡東港パートナーズ

■各便の利用件数（総数307票）

			鳥羽発						
			12日(土)		13日(日)		14日(月祝)		乗船なし
			11:20	16:10	11:20	16:10	11:20	16:10	
蒲 郡 発	12日 (土)	9:00	1	59	3	9	3	3	29
		13:40	0	0	1	0	0	0	6
		18:30	1	0	0	0	0	0	0
	13日 (日)	9:00	0	0	0	32	2	11	23
		13:40	0	0	0	0	0	0	5
		18:30	0	0	2	0	0	0	0
	14日 (月祝)	9:00	0	0	0	0	1	1	24
		13:40	0	0	1	0	1	1	3
		18:30	0	0	0	0	2	0	1
	乗船なし		8	2	13	9	12	0	

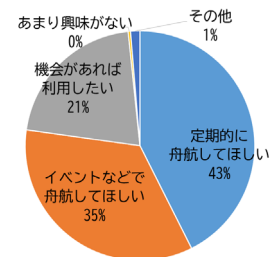
乗船者を対象にアンケート調査を実施

竹島ふ頭の将来の海上交通のターミナルとしての位置づけ、必要な機能、交通結節点としての利便性検証のためにアンケート調査を実施しました。

アンケートは13項目の質問や意見を求める内容で、乗船客を対象に運行中の船上で行い、計300以上の回答が得られました。（下記に結果を抜粋）

<結果：蒲郡―鳥羽航路について>

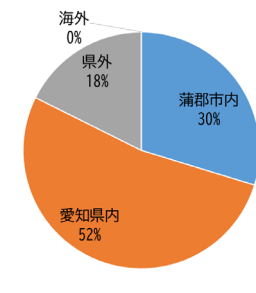
- ・99%の人が再度乗船したいと回答し、そのうちの半数近くが定期的な就航を希望していました



(n=303)

<結果：乗船について>

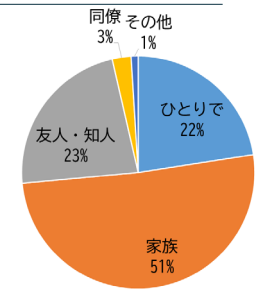
- ・30%は蒲郡市内からの旅客でしたが70%は愛知県内外からの乗船客で、海上交通復活による市域を超えた集客を期待できることが見えてきました



(n=306)

<結果：構成について>

- ・乗船客の半数以上は家族連れで、実際に3世代で乗船をする姿も多く見られました
- ・同時に一人や友人との船旅を楽しむファンの様子も見られました

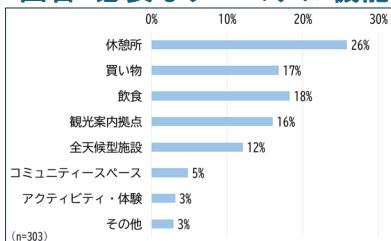


(n=306)

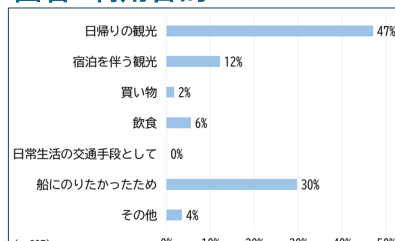
<結果：その他>

- ・蒲郡から鳥羽へ向かった乗船客は主に観光を楽しみ、3分の1は鳥羽にとどまらず伊勢や志摩へと足を伸ばしていました
- ・鳥羽からの乗客の43%は竹島水族館を始め竹島園地エリアを訪れ、中には生命の海科学館に立ち寄る人も見られましたが、東港全体の回遊性向上には東港地区全体の魅力アップが不可欠という結果でした
- ・オレンジパーク、ラグーナ、西浦など市内の観光拠点と海上交通をつなぐ交通ネットワークの必要性も感じられました

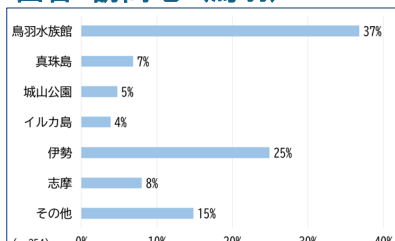
回答: 必要なターミナル機能



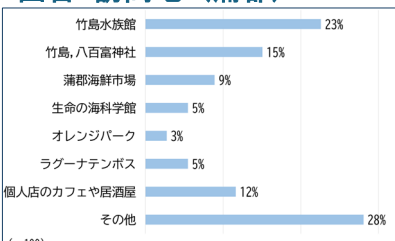
回答: 利用目的



回答: 訪問地（鳥羽）



回答: 訪問地（蒲郡）



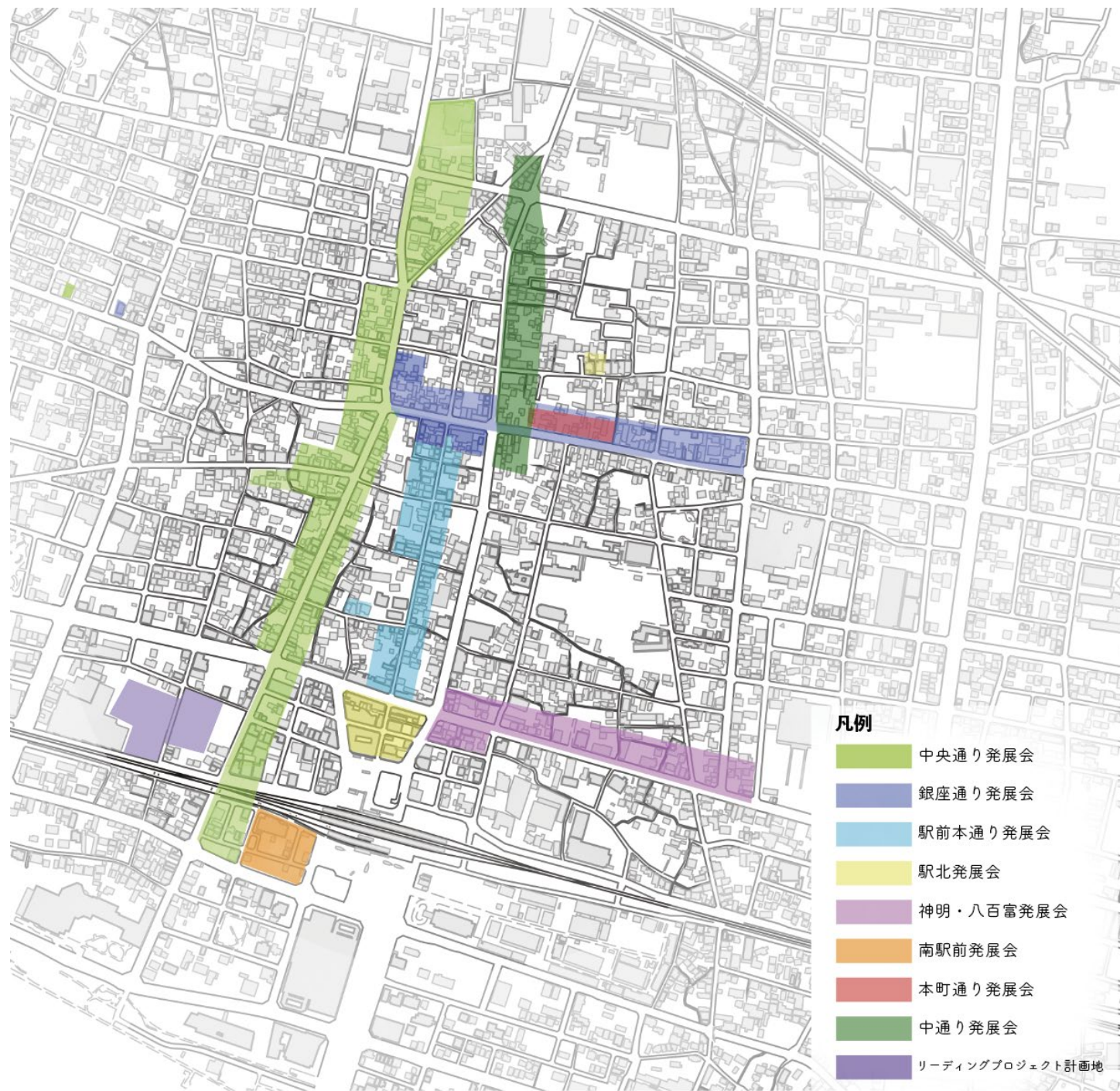
上図：●乗船場となった竹島ふ頭3号岸壁とターミナル機能検証エリア



9 駅北商店街活性化チーム「がまきたいっか」

9-1 蒲郡商店街と「がまきたいっか」について

蒲郡商店街の各発展会



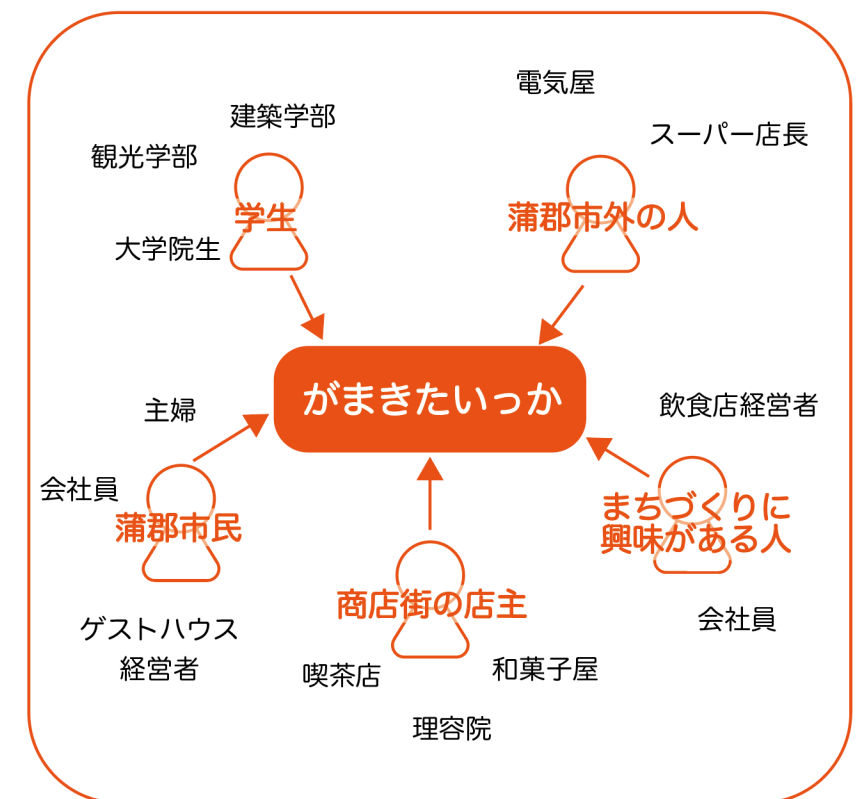
蒲郡商店街区分マップ

蒲郡商店街

蒲郡商店街は、かつて市民の日常生活において重要な商業エリアとして賑わいを見せていました。しかし、近年では後継者不足や人通りの減少により、商店街の店舗数が徐々に減少し、衰退の一途を辿っています。そのような状況の中で、駅北商店街はレトロな雰囲気を持つ店舗が点在し、往時の風景を感じさせる商店街として、今もなお多くの魅力を保っています。

駅北商店街活性化チーム「がまきたいっか」

東港地区では、港を開発することにより、多くの人々が日常的に訪れてもらえるまちを目指しています。そのためには、来訪者がまた訪れたいくなる（リピーター）まちになることが重要であり、隣接する既存市街地の魅力向上も有効とされています。「がまきたいっか」の組織化や活動を側面から支援をすることで、東港地区の継続的な発展の補完をはかっていきます。メンバーは、商店街の店主や有志たちで構成されており現在は25名です。

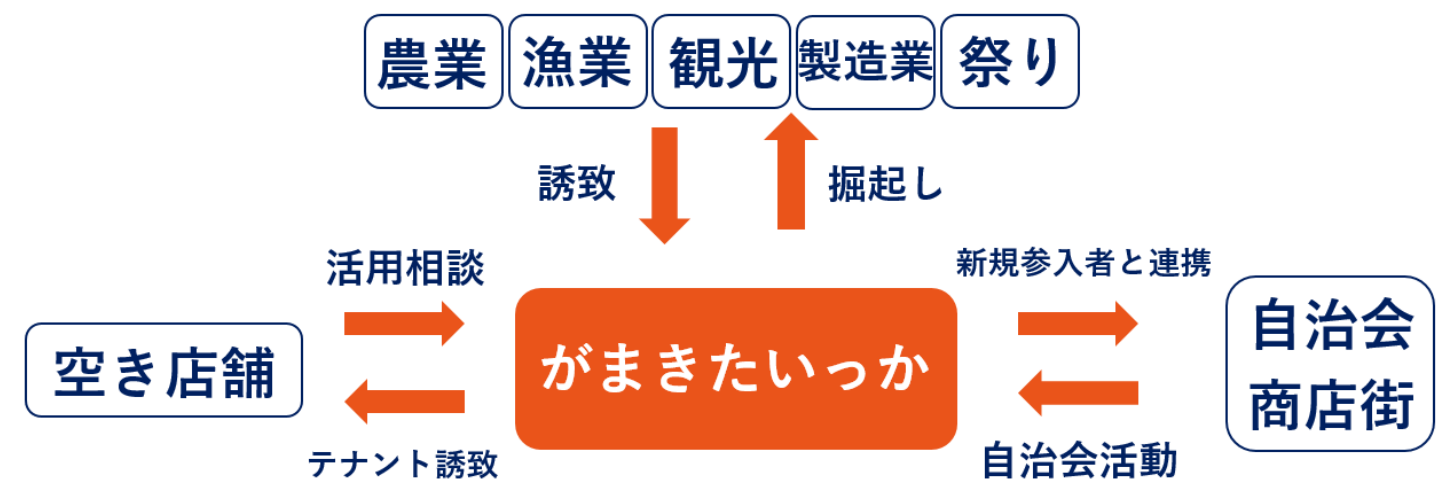


メンバー構成図

持続可能な取り組みとするために

蒲郡の一次産業（農業・漁業・製造業など）や工芸（祭り・木工・革・イラスト）を活用し、市内や近郊のエリアから魅力的なコンテンツを発掘します。これらのコンテンツを商店街の空き店舗に誘致し、既存の日常生活との調和を図りながら、来街者の動きを活性化させることを目指します。持続可能な取り組みを実現するために、地域住民やまちづくりの関係者が連携できるよう、がまきたいっかが中心的な役割を果たします。

蒲郡の魅力あるコンテンツ



持続可能な取り組みのためのスキーム図

9-2 がまきたいっかの活動について①～まちづくりビジョンとチームづくり～

まちづくりビジョン



将来ビジョンマップ

活動スケジュール

がまきたいっかの会議は、月に2回の定期的な形式で行われています。定期会議に加え、各チームはそれぞれ独自の会議も実施しています。今年度は、がまきたいっかのイベントを2回開催しました。

2024.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年1月・・・
第1回 (1/26)	第2回 (2/26)	第3回 (3/18)	第4~6回 (4/1,4/15, 4/22)	第7~14回 (5/1,5/2,5/7, 5/10,5/20, 5/24,5/29, 5/31)	第15回 (6/28) GAMA-GO- ROUND vol.1 開催 (6/1.2)	第16~17回 (7/12,7/26)	第18~20回 (8/9,8/23, 8/30)	第21~23回 (9/13,9/20, 9/27) ごりやく市参加	第24~25回 (10/4,10/18)	第26~28回 (11/1,11/15, 11/29) ごりやく市参加	第29~30回 (12/6,12/13) GAMA-GO- ROUND vol.2 開催 (12/15)	第31回~ (毎月2回開催)

①拠点づくり

まちが変化していく過程が見える場所にする

地域の空き家や空き店舗の再生を促進するために、拠点を設立し、そこで店舗営業やまちづくり活動を試行します。これにより、再生の波及効果を広げることを目指します。拠点づくりの過程において、ハード面とソフト面の両方で何が行われているかを明確に示していきたいと考えています。

②イベント実施

新規参入者の誘致を図る

拠点の構築と同時に、魅力的なイベントを継続的に開催することで、個性あふれる店舗を誘致します。既存のイベント（ごりやく市）に加え、新たなイベントを実施し、新規参入者を発掘します。また、イベントを通じて将来の目標を見据え、商店街に人々が継続的に訪れるよう努めます。

③商店街のブランディング

魅力あふれる面白いまちづくりを目指す

地域の農業、漁業、工芸を基盤とした独自性のある店舗を誘致することにより、地域内外から魅力的なエリアとして認識される店舗や活動を引き寄せます。

④空き家調査

蒲郡商店街およびその周辺に存在する空き家や空き店舗の数や状態に関する情報を収集するため、空き家調査を実施しています。外観から使用されていないと思われる物件を各自で調査し、マップに記載するほか、近隣住民へのヒアリングや所有者の意向を調査し、得られた情報をデータ化しており現在では14軒調査しています。

取組を具体化するチームづくり

- ・企画チーム…イベントやがまきたいっかの活動の企画を行う
- ・資金調達チーム…補助金や協賛金などの調査をする
- ・空き家調査チーム…商店街の空き家・空き店舗の調査を行う
- ・広報チーム…イベントのチラシの作成やSNSの発信をする
- ・内部調整チーム…定例会議の議題や各チームのサポートをする

会議の様子



9-4 がまきたいっかの活動について③～港と旧市街地を繋ぐ～

イベントの実施

定期的にイベントを行い継続的な賑わいづくりをして、商店街のブランディングに繋がるような活動を行っています。

GAMA-GO-ROUND vol.1 ここからはじまる駅北ストーリーの開催

ポートタウンまちづくりデイズ2024のスピノフ企画として、がまきたいっかで初めて開催されたスタンプラリーイベント「GAMA-GO-ROUND vol.1～ここからはじまる駅北ストーリー～」が蒲郡商店街で行われました。このイベントの目的は、**駅北の旧市街地と港との間に回遊性を生み出すために必要な要素を探ること、来街者に商店街の広さを認識してもらうこと、そして商店街の魅力的な商品や人々を発見してもらうことです。**また、将来的に港との関係性がどのように構築されるべきかを検討する機会ともなりました。

②イベントの様子



2024年～2025年の取組～港と旧市街地を繋ぐ～

①拠点の整備

複数の候補となる空き家の中から拠点を選定し、店舗営業や地域づくりの活動を展開します。これにより、地域の空き家や空き店舗の再生を促進し、がまきたいっかの活動が地域住民に浸透するよう努めます。

②テナント誘致の推進

蒲郡の一次産業（農業、漁業、製造業など）や工芸に関連する事業者候補に対して具体的な出店の提案を行い、商店街の空き家や空き店舗への誘致を図ります。これにより地域資源の有効活用を促進し、地域内外から魅力的なエリアとして認識されることを目指します。

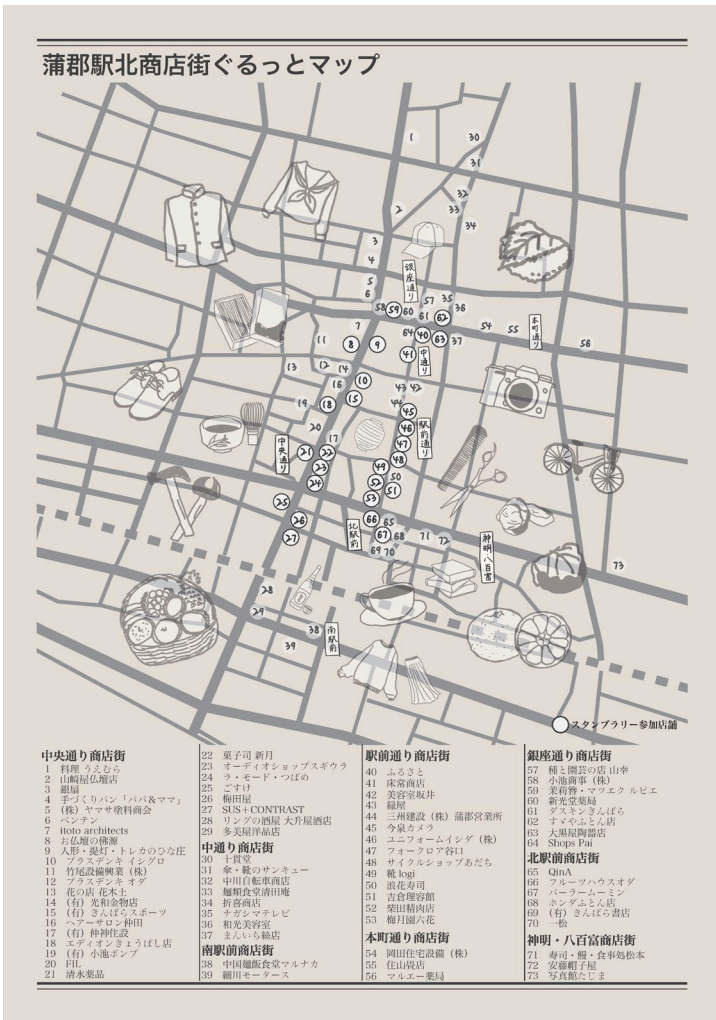
③駅前でのイベント開催

商店街だけでなく、検証結果に基づき人流を生み出すために蒲郡駅前でイベントを実施します。これにより人の流動性や回遊性を向上させ、港と旧市街地を結びつけ、まちの連続性を創出します。



③検証結果

検証の結果、駅北の旧市街地と港の間に滞留空間を設けることにより、港と駅の北側の往来しやすくなり、回遊性をすることができました。さらに、普段は入りにくい店舗もこのようなイベントをきっかけに訪れることが可能になり、参加者は商店街にどのような店舗が存在し、広範囲にわたって商店街が分布していることを認識することができました。



商店街からはじまる波及効果の期待